



令和2年度 スポーツ庁委託事業  
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

浜松市ムーブメント事業  
地域報告会・ワークショップ

# 事業実施報告書

令和3年3月



オリパラ教育浜松市内大学連携協議会

## 目 次

### 〈事業概要〉

1. 事業目的	-----	1
2. 事業体制	-----	1
3. 事業内容	-----	2
4. スケジュール	-----	3

### 〈教育推進事業〉

#### 1. 各校における教育実践事例

● 浜松市立西小学校	-----	5
● 浜松市立相生小学校	-----	13
● 浜松市立広沢小学校	-----	16
● 浜松市立萩丘小学校	-----	19
● 浜松市立富塚小学校	-----	22
● 浜松市立上島小学校	-----	26
● 浜松市立城北小学校	-----	30
● 浜松市立中ノ町小学校	-----	39
● 浜松市立花川小学校	-----	44
● 浜松市立伊佐見小学校	-----	50
● 浜松市立都田南小学校	-----	54
● 浜松市立砂丘小学校	-----	58
● 浜松市立佐鳴台小学校	-----	61
● 浜松市立雄踏小学校	-----	70
● 浜松市立伊目小学校	-----	76
● 浜松市立井伊谷小学校	-----	79
● 浜松市立三ヶ日東小学校	-----	85
● 浜松市立八幡中学校	-----	88
● 浜松市立蜆塚中学校	-----	92
● 浜松市立北星中学校	-----	96
● 浜松市立都田中学校	-----	98
● 浜松市立篠原中学校	-----	101
● 浜松市立可美中学校	-----	104

#### 2. 地域報告会・講演会

● トップアスリート講演会	-----	108
---------------	-------	-----

3. 構成員および協力者・企業・団体一覧	-----	卷末
----------------------	-------	----

◆本報告集は、各教育推進校による報告書他、計画書等より抜粋して掲載しております。

## 〈事業概要〉

### 1. 事業の目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会を経験できることを希少な機会と捉え、世界的なイベントを通じて、子供たちがスポーツの価値への理解を深めるとともに、「スポーツ文化都市浜松」の実現に資する関心や意欲を高める。また、ブラジルホストタウンとしてブラジルのオリンピック・パラリンピック選手との交流を通じ異文化への理解を深め、さらにはパラスポーツに触れることで、子供たちが障害者への理解を深め、将来の共生社会の担い手として活躍するための資質を育てることを目指す。国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成していく。

### 2. 事業体制

浜松市と市内各大学は、双方の相互協力及び連携のもと、双方の資源を有効に活用した協働による地域課題への取り組みや、知的・人的な交流の推進など、双方の発展と充実を目的とした協定を結んでいる。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催を機に、2019年2月、常葉大学、浜松学院大学、聖隸クリストファー大学、浜松医科大学の4大学が連携して「オリパラ教育浜松市内大学連携協議会」を設置した。翌年、2020年2月には静岡文化芸術大学が加盟し、5大学となる。大学の特徴を生かし連携することで、浜松市内の小中学校においてオリパラ教育活動の支援やオリパラムーブメント事業を行っている。

「オリパラ教育浜松市内大学連携協議会」によるプログラム提案に基づき、浜松市教育委員会を通じて「教育推進校」を募集した。小学校 17 校、中学校 6 校の応募があり、すべてを「教育推進校」として指定した。

#### [事業体制]



#### [オリパラ教育浜松市内大学連携協議会]



### 3. 事業内容

#### (1) 地域セミナーおよび地域報告会の開催

教育推進校の教員等を対象に全国中核拠点(早稲田大学)と連携して実施する「地域セミナー」は、新型コロナウィルス感染拡大予防のため中止し、資料配布のみとした。

「地域報告会」は浜松市勤労会館 U ホールを会場とし、協力企業・団体を招き、教育推進校での教育実践事例の報告、アンケート結果や全国の実践事例の報告を行った。また、同日、地域の方も参加できるトップアスリート講演会を開催した。

4月中旬	地域セミナー	中止
2月 15 日	地域報告会	浜松市勤労会館 U ホール

#### (2) トップアスリート講演会開催

教育の現場に留まらず、地域の方が参加できる機会を設け、浜松市全体でオリンピック・パラリンピックに対する機運醸成を図った。オリンピック、パラリンピックメダリストを招聘し、体験談からスポーツの価値や共生社会への理解を深める機会とした。

今年度は新型コロナウィルス感染対策のためリモートでの参加を可能とし、2校の教育推進校(城北小と都田南小)の6年生がリモート参加した。

2月 15 日	トップアスリート講演会&トークショー
	テーマ「夢を叶えた不退転の軌跡」
[講師]	元女子柔道選手 松本 薫氏 (ロンドン大会金メダル、リオデジャネイロ大会銅メダル)
	車いすラグビー 池崎大輔選手 (ロンドン大会第4位、リオデジャネイロ大会銅メダル)

#### (3) 教育推進校での教育実践

協議会に属する大学は、23 の教育推進校を分担し、各教育推進校と協議・調整しながら、学校内でのオリパラ教育を推進した。健康とスポーツ、福祉、医療、多文化共生など、各大学の専門分野や人材を生かし、教育実践活動を支援した。

新型コロナウィルス感染対策により、1 学期はほぼ活動ができなかつたが、2 学期以降、感染対策を講じて、昨年並みの充実したオリパラ教育活動を実施することができた。また、今年度も市内の企業、団体等の協力を得て実践した。

[教育推進校と担当大学]

担当大学	教育推進校	校数
常葉大学	萩丘小学校、都田南小学校、雄踏小学校、 井伊谷小学校、都田中学校、篠原中学校、可美中学校	7
浜松学院大学	西小学校、広沢小学校、富塚小学校、城北小学校、 佐鳴台小学校、鷺塚中学校	6
聖隸クリリストファー 大学	花川小学校、伊佐見小学校、伊目小学校、 三ヶ日東小学校、北星中学校	5
浜松医科大学	上島小学校、中ノ町小学校	2
静岡文化芸術大学	相生小学校、砂丘小学校、八幡中学校	3

(4) ブラジルパラアスリートとのリモート交流

東京 2020 大会延期によりブラジルアスリートの来日、合宿は中止となり、浜松市内におけるブラジルアスリートとの交流は実現できなかったが、その代替策として、浜松市スポーツ振興課の協力を得て、ブラジルパラアスリートとのリモート交流を行った。

小学校名	交流日	競技	交流選手	設備環境	交流児童生徒数
西小学校	11月19日	パラ水泳	マリア カロリナ サンチアゴ選手 Maria Carolina Santiago	各教室	56名 (6年生2クラス)
			ダニエル ディアス選手 Daniel Dias		
砂丘小学校	12月1日	パラ陸上	ペトリュシオ フェヘイラ選手 Petrucio Ferreira	体育館	79名 (全校児童6クラス)
			ハイサ ホシャ選手 Raissa Rocha		
都田南小学校	12月9日	5人制 サッカー	ルアン デ ラセルダ ゴンサウヴェス選手 Luan de Lacerda Gonçalves	各教室	382名 (全校児童16クラス)
			ハイムンド アウヴェス メンデス選手 Raimundo Nonato Alves Mendes		
八幡中学校	1月14日	ボッチャ	マテウス ホドリゲス カルバーリョ選手 Mateus Rodrigues Carvalho	体育館	130名 (1年生4クラス+発達 学級)
			エブリン ヴィエイラ デ オリベイラ選手 Evelyn Vieira de Oliveira		
佐鳴台小学校	2月3日	パラ卓球	イスラエル ベレイラ ストロ選手 Israel Pereira Stroh	各教室	93名 (4年生3クラス)
			ダニエレ ハウエン選手 Danielle Rauen		

4.スケジュール

今年度の実施期間は、浜松市との委託契約により、令和2年4月1日～令和2年3月13日となっているが、新型コロナウィルス感染予防のため、概ね9月以降の実践となった。



## 〈教育推進事業〉

### 1. 各校における教育実践事例

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立西小学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人數)	6年生 56名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）            ② 行事名（ ）            ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）            ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック、パラリンピックに関する知識を高め、オリ・パラ精神の内容を自らの生き方に生かそうとする態度を養う。
5 取組内容	<p>令和2年7月20日に、浜松学院大学、大野木龍太郎教授を講師として招き、6年生対象に講話をしていただいた。「オリンピック博士になろう」というタイトルでクイズをまじえながら、児童にもわかりやすくオリンピックについての説明をしていただいた。以下はその内容である。</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1 なぜ東京オリンピックは延期になったの? →新型コロナウイルス感染拡大から生命を守るため。これまで戦争以外の理由でオリンピックが開催されなかつたことはなかった。</li> <li>2 アスリートファーストとは? 「誰も五輪の延期は望んでいないが、私が公言しているように、我々は選手たちの安全という代償を払ってまで、是が非でも大会を開催することはできない。五輪開催をめぐる</li> </ol>

	<p>決定は、非常に迅速に行わなければならない。そうする時がきていると思う」セバスチャン・コー（世界陸連会長）</p> <p><b>【オリンピック博士になろう：クイズ】</b></p> <p>Q1. オリンピックのシンボル（旗）の意味は？ →ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア、オセアニアの御大陸とその相互の結合、連帯。</p> <p>Q2. オリンピックの3つのモットー。 →「より高く」「より速く」「より強く」</p> <p>Q3. オリンピックはなぜ4年に一度なの？ →古代オリンピックにならったため。</p> <p>Q4. 1974年よりオリンピック憲章で認められるようになつた選手のある参加資格とは？ →難民国選手の参加。</p> <p><b>【オリンピック・パラリンピックの理念・価値】</b></p> <p>○オリンピックの理想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳維持に重きを置く、平和な社会を推進すること</li> <li>・友情、連帯フェアプレイの精神に基づく相互理解</li> </ul> <p>○オリンピックの価値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓越 (Excellence)    • 友情 (Friendship)</li> <li>・敬意／尊重 (Respect)</li> </ul> <p>○オリンピック精神の5つの教育的価値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・努力から得られる喜び</li> <li>・フェアプレイ    • 他者への敬意</li> <li>・向上心            • 体と頭と心のバランス</li> </ul> <p>○オリンピズムの根本精神</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手間の競争であり国家間の競争ではない。</li> <li>・重要なことは勝つことではなく参加することである。</li> </ul>
6 主な成果	講話を聴いた後の児童の感想として、「オリンピック・パラリンピックについてもっと知りたい」「今まであまり興味がなかつたけど、オリンピック・パラリンピックについてもっと調べて、東京オリンピックを観たい」などの言葉が聞かれた。児童の興味・関心を高めるとともに、今後のオリンピック・パラリンピック教育推進事業の良い導入とすることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	総合的な学習の時間「世界で生きる人を目指して」の一環として本講話を位置付けたため、オリンピック・パラリンピックに関する単なる知識ばかりではなく、それに携わる人々の思いや生き方にも触れた内容で講話していただくようお願いをした。
8 主な課題等	事後学習として、講話の内容の振り返りや講師の先生へのお礼状の作成・送付などを実施したが、事前学習の時間が十分に確保できなかった。講話の前に少しでもオリンピック・パラリンピックの内容に触れる時間を計画に入れておきたい。
9 来年度以降の実施予定	来年度も6年生を対象に実施したい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立西小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	6年生・56名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技にも使用される車椅子を製造する業者の方の話を聞くことにより、共生社会に関する意識を高め、社会のために貢献しようとする心を育てる。
5 取組内容	令和2年12月7日に、6年生の総合的な学習の時間の単元「世界で生きる人を目指して」の中で、車椅子メーカー橋本エンジニアリングの方々を講師に招き、講話をしていただいた。また、後半は実際に車椅子に乗させていただく体験をした。
	 <p>【講話内容】「ワクワク製造企業」</p> <p>1. 橋本エンジニアリング – どんな会社?      &lt;4つの仕事&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 介護・福祉の仕事 • モビリティの仕事</li> <li>• 車、バイクの仕事 • 医療の仕事</li> </ul>

	<p>&lt;車椅子作りを始めたきっかけ・思い&gt;</p> <p>リーマンショック以降、少ない売り上げでも利益を出す仕組みづくりを考えた。景気に左右されない浜松から世界に誇れるものづくりをめざして車椅子の製作を始めた。どこよりも軽く丈夫な車椅子作りを試行錯誤し、マグネシウム合金製のものを製作している。</p> <p>2. 車椅子作り成功の秘訣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 絶対に成功させる、という強い意志</li> <li>② 自分たちでなく周りの力を借りて協力して作り上げる</li> <li>③ 成功するまでやり続ける</li> </ul> <p>3. パラリンピックとの関わり</p> <p>パラリンピックの車椅子テニス、車椅子ラグビー用の車椅子を製作している。選手たちのことを考え、少しでも動きやすいものを作ろうと、妥協せずに製作に打ち込んでいる。</p> <p>4. 可能性は無限大</p> <p>物事を一つの側面だけで考えず、多面的に考えることが大切である。「可能性は無限大」</p> <p>【車椅子体験の様子】</p> 
6 主な成果	講話を聴いた後の児童の感想として「強い意志をもってあきらめずにやり続けることが大切だとわかりました」「いろいろ人の力を借りて、目標をもち、行動につなげて、習慣にしていくことが成功の秘訣だと学びました」等の言葉が見られ、児童生き方・考え方には大きな影響を与えたと考えられる。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	講話を実施する前に、橋本エンジニアリングの方々と打ち合わせを行い、本校の総合的な学習に沿った内容、特に、パラリンピックをものづくりで支えている橋本エンジニアリングの皆さんへの思いを語っていただくようお願いをした。
8 主な課題等	本校としては、昨年度、今年度と6年生への講話をお願いしたが、大変すばらしい内容であったため、来年度は、全校もしくは複数の学年対象でお願いする方向も視野に入れたい。
9 来年度以降の実施予定	来年度の6年生、その他の学年の授業でも、総合的な学習の時間の中でぜひ実施したい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立西小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	6年生・56名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	ブラジルパラリンピアンとのリモート交流を通して、ブラジルやパラリンピックに関する理解を深めるとともにパラリンピアンの生き方に触れ、自分の生き方に生かそうとする態度を養う。
5 取組内容	<p>11月19日(木)浜松学院大学の協力をいただき、ブラジルパラリンピアンとのリモート交流を行った。</p> <p>&lt;事前学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジル、パラリンピック、パラリンピアンなどについて、パソコンを使用し調べ学習を行った。</li> <li>・浜松学院大学の大野木教授をお招きし、オリンピック・パラリンピックに関する講話をいただいた。</li> </ul> <p>&lt;リモート交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流選手            ○マリア カロリナ サンチアゴ選手            年齢：35歳            種目：水泳（自由形、背泳ぎ）            障がい：視力障がい（先天性）            モットー：私にとって、水泳は常に私の恐怖心を克服する方法である            ○ダニエル ディアス選手            年齢：32歳            種目：水泳（自由形、バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ）            障がい：手足の欠損（先天性）</li> </ul>

	 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当日の流れ             <ul style="list-style-type: none"> <li>① あいさつ（ポルトガル語で）</li> <li>② 選手たちの自己紹介                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前、競技、パラリンピックへの思いなど</li> </ul> </li> <li>③ 質問タイム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな練習メニューを行っているか</li> <li>・どうやって体のバランスをとっているか など</li> </ul> </li> <li>④ あいさつ</li> </ul> </li> </ul>
6 主な成果	<p>本物のアスリートと交流することができ、児童たちは大変喜び、興奮していた。オリンピックばかりでなく、パラリンピックに興味を持つ大変よいきっかけとなった。</p> <p>児童の聴き取りメモの中に、心に残った言葉として「障がいは人を分類する限定的な言葉です。私たちは誰にでも不完全さと限界があります。私は障害のあるアスリートではなく、パラリンピックのアスリートです。: ダニエル選手」や「私にとって水泳は、常に私の恐怖心を克服する方法である。: マリア選手」など選手たちのモットーが書かれていた。児童たちは選手たちの生き方に触れることができた。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>浜松学院大学担当者とメールでのやりとり、事前打ち合わせを行って、当日の細かな流れ、wifi 環境の確認などを行い、確実な実施ができるよう丁寧な準備を心掛けた。また、通訳の方に入っていただいたおかげでスムーズに交流することができた。</p>
8 主な課題等	<p>6年生は、本事業のほかにも、浜松学院大学教授のオリンピック・パラリンピック講話、橋本エンジニアリングの車いすに関する講話も実施している。来年度は、これらの事業をより関連付けて実施できるよう検討したい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>来年度も機会があればぜひ実施したい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立西小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input type="radio"/> III · <input checked="" type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童・344名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( 図書コーナーの設置 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック関連の図書コーナーを設置し、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>令和2年6月から令和3年1月までの間、来室した児童がいつでも読めるように、図書室の一角に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置した。</p>  <p>図書室にあったオリンピック・パラリンピックやスポーツに関連した本の他、協力校の浜松学院大学より、以下の図書も借用して設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 1 夢に向かってチャレンジ！」</li> <li>・「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 2 助け合い、支えあって」</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの 3 世界の人々とつながって」</li> <li>・「しらべよう！かんがえよう！オリンピック 1 しっているようでしらない五輪」</li> <li>・「しらべよう！かんがえよう！オリンピック 2 五輪記録の光と影」</li> <li>・「しらべよう！かんがえよう！オリンピック 4 ハイテクオリンピック」</li> <li>・「パラリンピックの楽しみ方 ールールから知られざる歴史 までー」</li> <li>・「決定版 これがオリンピックだ オリンピズムがわかる 100 の真実」</li> <li>・参加しよう！東京パラリンピックとバリアフリー 1 パラリンピック競技を体験 — ボッチャ、ボーゴールボール など —</li> <li>・参加しよう！東京パラリンピックとバリアフリー 2 パラリンピックで変わる日本 — 新しい街とユニバーサル デザイン —</li> <li>・オリンピック・パラリンピッククイズ 1 オリンピック歴史編</li> <li>・オリンピック・パラリンピッククイズ 2 オリンピック競技編</li> <li>・オリンピック・パラリンピッククイズ 3 オリンピック人物編</li> <li>・オリンピック・パラリンピッククイズ 4 パラリンピック編</li> </ul>
6 主な成果	「オリンピック・パラリンピックコーナー」に興味を持ち、 囮休みに本を手に取る児童が多く見られた。
7 実践において 工夫した点 (事業の特色)	誰にでもわかるように図書室中央にコーナーを設置した。また、浜松学院大学よりいただいたパネル2枚をコーナーの中央に配置し、視覚的に興味が持てるようにした。
8 主な課題等	本校では、オリンピック・パラリンピック教育推進事業として、6年生は、この図書コーナー設置の他、3つの事業を実施しているため、オリンピック・パラリンピックへの興味関心が比較的高くなっている。来年度は、他の学年でも何らかのオリンピック・パラリンピック教育を実施し、図書コーナーへの関心を高めたい。
9 来年度以降の 実施予定	来年度もオリンピック・パラリンピックコーナーを設置して、本事業を継続したい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立相生小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	【講演】4年生105名 5年生100名 6年生 82名 【体験】4年生105名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）            ② 行事名（オリパラ講座）            ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）            ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。</li> <li>・夢に向かって工夫していくことで、諦めない心や多様な価値観を学ぶと共に自己肯定感を育てる。</li> </ul>
5 取組内容	<p>日時：令和2年11月16日（月）9：15～12：00            講師：参天製薬株式会社 インクルージョン推進リーダー            蒼原 滋男 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックメダリスト（陸上競技、自転車競技）</li> <li>・ブラインドサッカー元日本代表</li> </ul> <p>(1) 講演「パラリンピックから得たもの」（リモート開催）</p> <p>蒼原さんの生き立ちや障害者スポーツに魅了された体験談を聴いたり、走り高跳びや自転車競技でメダルを獲得した時の映像を見せてくださったりした。児童はスポーツを通しての「チャレンジ精神」、「諦めない気持ち」、「人ととのコミュニケーションの大切さ」をメッセージとして受け取った。</p>  

	<p>(2) ブラインドサッカートラーニング</p> <p>講師：NPO法人六星ウイズ半田 五十嵐 晓 さん</p> <p>アイマスクを着用した状態で、歩くことや競争形式での向かってボールを蹴ることを行った。相手の立場に立ってどのような声掛けをすればよいのかを考えることで、チームワークの育成につながった。</p> 
	<p>(3) オリンピック・パラリンピックに関するパネルや図書、葭原滋男氏のプロフィールを教室に掲示</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍ということで東京とリモートではあったが、パラリンピックの映像を見たり、本物のメダルを見せていただいたりして、児童はすごさを感じることができた。</li> <li>実際にパラリンピックに出場し、メダルを獲得した選手の話を聞くことで児童はパラリンピックを身近に感じられた。</li> <li>ブラインドサッカートラーニングでは、相手の立場に立って考え、声掛けをしたり協力したりすることの大切さを学んだ。</li> <li>4年生においては、総合的な学習の時間の学年テーマ「福祉」を深める大きなきっかけとなった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>急遽、静岡県や東京都の警戒レベルが上がったので、リモート接続を試み、実験し、無事に成功した。</li> <li>事前に葭原氏の資料を各教室に渡し、理解を深めることができた。また、図書やパネルについてもしばらく前から準備することでオリパラへの意識が高まった。そして、ブラインドサッカーのボールを多く貸していただいたので、全学年に紹介することができた。</li> <li>本校は体育科を研修の窓口にしているので、その面からもオリパラ教育について考えることができてよかったです。</li> </ul>

8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新型コロナウイルス対策もあり、体験での参加人数が限られてしまった。とても貴重な体験だったので、5年生や6年生も講演だけで終わるのではなく体験できるとよかったです。</li> <li>・日程がコロナ禍の関係で当初の予定（1学期）よりも伸びてしまった。リモートで対応はできたのだが、当日5分ほどの通信障害が起こってしまった。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年行われる予定の東京オリンピック・パラリンピックへの児童の興味や関心へつなげていきたい。</li> <li>・実際に来校していただき、講演を聴いたり体験ができたりするとよい。</li> <li>・今後も静岡文化芸術大学と連携し、行えることがあれば検討したい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立広沢小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV <input checked="" type="radio"/> V(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	5・6年生陸上部(約70名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名( )            ② 行事名( )            ③ その他( 部活動【陸上部】 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名( )            ② その他( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役陸上選手から指導を受けることで、技能の向上を図る。</li> <li>・将来の夢について広い視野をもったり、夢をもつことの大切さを知ったりする。</li> </ul>
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：9月8日(火)、9月29日(火)、10月6日(火)、10月13日(火) 15:30~16:30(計4回)</li> <li>・講師：株式会社 TOMO RUN</li> <li>・講演内容：            部活動の時間に講師(選手兼コーチ)をお招きした。基本動作や、短距離・跳躍・長距離の種目に分かれて指導していただいたり、競技の実演を見せていただいたりした。また、練習への取り組み方や夢を持つことの大切さ等について講義をしていただいた。</li> </ul>  

6 主な成果	基本動作から丁寧に指導していただいたため、フォームの改善ができた児童が多くいた。また、競技の実演やポジティブな声掛けを多くしていただいたため、児童が楽しく陸上に取り組むことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	主な連絡手段はe-mailで、少ない連絡調整で4回もの活動を行えた。活動はコーチ主導であったため、教員は少人数で十分に活動が行えた。また、教員への技術指導もしていただいたため、若手の教員にとって勉強になった。負担が少なく、質の高い練習ができるという点で、働き方改革という視点からも、今後につながるよい機会となった。
8 主な課題等	通常の種目練習の回数が十分に確保できなかっただけで、例年より記録の計測ができなかつたことが課題と感じる。
9 来年度以降の実施予定	TOMORUN様とのつながりは今後も、ぜひ、継続していくたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立広沢小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> I · <input type="checkbox"/> II · <input checked="" type="checkbox"/> III · <input checked="" type="checkbox"/> IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3、4、5、6年生(約500名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のパラスポーツへの興味、関心を高め多様性を尊重する態度の育成</li> <li>・将来の夢について広い視野をもったり、夢をもつことの大切さを知ったりする。</li> </ul>
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：9月17日(木) 13:35～16:20</li> <li>・講師：伊藤裕子先生(ペンギン村水泳教室)</li> <li>・講演内容：</li> </ul> <p>コロナ対応として、リモートで各教室の児童に向けて講演していただいた。動画を用いてパラリンピックについての紹介、実際にパラ水泳選手を指導した経験談、体を使った「可能性ゲーム」等、充実した1時間となった。</p>
6 主な成果	障害があってもパラリンピックで金メダルを獲得した選手のお話しや、体を使ったゲームや伊藤先生のとても前向きなメッセージを通して、児童が「自分もできる！」という希望をもてるような1時間になった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	コロナ対応として、講師には別室から講演をしていただき、各教室にいる児童と中継をつないだ。代表児童2名と担当教師は、伊藤先生と対面し、子供の反応を見ながら講演ができるように工夫をした。
8 主な課題等	回線の問題で動画の画質が悪くなってしまった。
9 来年度以降の実施予定	今回のように、児童に夢や希望を与えてくれるような講師の方を、機会があれば招聘したい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立萩丘小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4~6学年児童 339人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ゆめ講座）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる。
5 取組内容	<p>■実施日 11月13日 9:25~10:10</p> <p>○サッカー解説者として活躍している松原良香氏の講演を通して自分の夢について考える。</p> <p>○松原良香氏は、1996年アトランタオリンピックサッカー日本代表としてブラジル代表を破る。どのような状況にあっても、これに適応したり、置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら、社会の中で自分の能力を発揮できるように努力する姿勢を伝えてくれた。</p> 

	  
6 主な成果	<p>児童の感想より</p> <p>○夢は実現できると思いました。コツコツ積み重ねねばかなうかもしれない、壁を壊していくばかなうと思いました。失敗したら次は失敗しないように修正して成功につながることを教えていただきました。</p> <p>○松原さんの話で心に残った言葉があります。それは、「気持ちの切り替え」という言葉です。私は野球をしていますが、同じような場面で、チームメイトから励まされたことを思い出しました。私も今自分にできることは何だろうと考えて、野球を精一杯頑張りたいと思います。</p> <p>○「できないと考えないで、どうやったらできるかを考える」という言葉が心に残りました。夢は必ず叶うので僕も将来のために</p>

	<p>いっぱい勉強をしようと思いました。</p> <p>○私は、「夢を持つことが大切」ということを学びました。私は、今、夢があまりありません。でも良香さんのお話で夢を決めたいと思えるようになりました。こつこつと「夢に向かっていく」ことが大事だと思いました。</p> <p>○心に残ったことは、勉強のことについてです。私は、やりたくない勉強をよく後回しにしたり、集中していないときもあったりしました。けれど、話を聞いて、勉強をして身につければ世界が広がり、自分ももっと成長することができる事が分かったので、一生懸命頑張りたいです。</p>
7実践において 工夫した点 (事業の特色)	<p>○浜松市出身で、本校のグランドでサッカーの試合をしていた方が世界の第一線で活躍する人がいることを知ることで、親しみを覚えるとともに、誇りを持たせることができた。</p> <p>○夢を追い続ける松原氏の講演内容は、本校が毎年続けてきた「ゆめ講座」に合っていて子供たちも真剣に聞くことができた。</p>
8主な課題等	○講演会を中心とした活動であったので、体験的な活動へつなげていくとさらに継続的な取り組みになった。
9来年度以降の 実施予定	○オリンピック、パラリンピックに選手として参加をした方の魅力は、子供たちの心をひきつける。選手として、出場した方の話をぜひ聞きたい。来年度のオリンピック開催後に選手として参加した方の講演を計画したい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立富塚小学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生・94名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	総合的な学習の時間で「ともに生きよう」をテーマに1年間を通して学習している。車椅子、点字、白杖等の体験をして、UDについて各自の学習テーマを絞っていく。その共通体験の一つとして本事業を取り入れ、車椅子についての理解をさらに深める。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：7月20日（月） 12：55～13：40</li> <li>・講師：橋本エンジニアリング株式会社</li> <li>・講演内容 会社の方より           <ul style="list-style-type: none"> <li>① 車椅子を作るようになった理由</li> <li>② 車椅子を使う人のニーズに合うように制作する努力</li> <li>③ テニス選手のスポンサーとして車椅子を開発していく過程</li> </ul>           等の話を聞く。            また、実際に車椅子テニスの競技に使用されるものに試乗体験をさせていただく。         </li> </ul>
6 主な成果	会社の方から話を聞き、会社の概要やパラリンピックの車椅子テニスについての理解を深めることができた。 地元の会社が積極的に福祉関係に関わっていることや、車椅子テニス選手のスポンサーになり、選手のニーズに 

	<p>応えられるように車椅子を改良していく努力を知ることができた。</p> <p>軽量車椅子に実際に座って操作する体験から、さらに福祉について考えを深めることができた。また、選手から色紙をいただき、パラリンピックの車椅子テニスの競技に注目すると思う。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	浜松市は車産業が昔から盛んで、関連会社もたくさんある。どうして車椅子の会社が浜松なのか話を聞き理解することができた。車関連会社と相談しやすく、部品の調達もすぐにできる。この点が地域特有の伝統に関わりがあると考える。
8主な課題等	特になし
9来年度以降の実施予定	来年度以降も、4年生が総合的な学習の時間に福祉をテーマに学習を進める予定である。 可能であれば、今回と同じ体験をさせたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立富塚小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	陸上部員(5, 6年生 100名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )            ② 行事名 ( )            ③ その他 (部活動【陸上部】)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	現役陸上選手から直接指導を受けることで、技術の向上と記録のアップを図る。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 9月24日(木) 15:10~16:30 9月25日(金) 15:10~16:30 10月 8日(木) 15:10~16:30 10月 9日(金) 15:10~16:30</li> <li>・講師 : TOMO RUN</li> <li>・講演内容 : 走、跳、投の各グループに分かれて、アップと一緒に、練習の様子を見ていただいた。その都度、技術的なアドバイスを直接いただいた。</li> </ul>     

6 主な成果	陸上競技専門の講師より、種目ごとに練習方法を教えていただいた。練習を見ていただき、その都度、フォームや技術的なアドバイス等を直接いただいた。 陸上競技専門の講師から直接アドバイスをいただくことで、着実にスキルアップすることができた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	陸上競技専門の講師から、直接アドバイスをいただくことができるような時間を十分に確保した。
8 主な課題等	特になし
9 来年度以降の実施予定	来年度も陸上部の活動が予定されているので、このような事業があるならば、ぜひ、継続していきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立上島小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年 約150人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）            ② 行事名（ ）            ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）            ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	児童はアスリートの講話を聴き、スポーツ選手の生活や生き方について知り、将来の自分の姿に見通しをもつことができる。
5 取組内容	<p><b>アスリートによる講話、実技指導（第6学年）</b></p> <p><b>【日 時】</b> 11月20日（金）5, 6校時（13：40～15：20）</p> <p><b>【講 師】</b> (株) TOMORUN 中川智博代表 鈴木義啓監督</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① アスリート、代表取締役による講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 鈴木義啓選手より、陸上選手を目指した経緯やこれまでの経歴、日々の練習の様子やアスリートとしての考え方について教えていただいた。</li> <li>• (株) TOMORUN 中川智博様より、会社での取り組みや働く上で大切にしていることについて教えていただいた。</li> </ul>  

	<p>② 陸上運動の実演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>走り高跳びの跳躍（はさみ跳び、背面跳び）を披露していただいた。</li> </ul> 
	<p>③ 走り方の実技指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>速く走るために「押して走る」ことの大切さについて、動画を交えて教えていただいた。</li> <li>ウォーミングアップの仕方や、「押して走る」を体感するための練習方法を御指導いただいた。</li> </ul> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師が陸上選手になるまでの経緯を聞き、自身の目指す職業に就くまでの過程について考え、イメージを持つことができた。</li> <li>児童たちが意欲的に運動に取り組むことができた。また、陸上競技に興味を持った児童も多かった。</li> </ul> <p>【児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「練習は量ではなく質」という言葉がとても印象的だった。</li> <li>「夢」と「目標」の違いに関する話が心に残った。これからは「目標」を達成できるよう努力したい。</li> <li>努力し続けることの大切さが分かった。今後の自分の生き方に活かしていきたい。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	地元浜松で御活躍されている企業、アスリートの方をお招きして御講話いただくことで、児童たちは身近なところで活躍している方の存在を知り、関心を高めることができた。
8 主な課題等	<p>次年度以降、同様の実践を行うためには、コロナウイルス感染症に関する対策を引き続き行う必要があると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2校時続けて行う場合の休憩時間の過ごし方</li> <li>1回の講座における児童の人数</li> <li>会場確保のための校内での調整（体育館、グラウンド）</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	児童たち、教職員にとって貴重な学びの場となった。次年度も同じように実施していきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立上島小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年 約110人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）            ② 行事名（ ）            ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）            ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	児童は車いすやパラリンピック競技に関する講話を聴いたり、車いすに乗る体験をしたりして、福祉に対する興味や関心を高めることができる。
5 取組内容	<p><b>車いす作りに関する講話、及び試乗体験（第4学年）</b></p> <p><b>【日 時】</b> 9月15日（火）2, 3校時（9：15～11：05）</p> <p><b>【講 師】</b> (株)橋本エンジニアリング 営業部次長 鈴木 敬治 氏 管理部係長 藤田 芙美代 氏</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>① 会社概要、車いすの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすを作るうえで、心掛けていることや使っている素材について教えていただいた。</li> <li>・乗る人の用途に合わせた様々な種類の車いすについて、特徴や工夫している点について紹介していただいた。</li> </ul>  

	<p>② 車いすの試乗体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乗り方や進み方、曲がり方などを教わり、安全に配慮しながら児童全員が試乗させていただいた。</li> </ul> 
6 主な成果	<p>児童たちは実際に車いすに乗り、操作する体験を通して、日常的に車いすに乗って生活する人の立場から、製作者の工夫や意図を感じることができた。</p> <p>【児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で車いすを操作してみて、実際に車いすに乗って生活している人の気持ちが分かった。</li> <li>いろんな形の車いすがあり、様々なスポーツによって分かれていることを知った。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	地元浜松で御活躍されている企業の方の取り組みや講話を聞くことで、身近なところでUDに関する活動をしている人々の存在を知り、興味を持つことができた。
8 主な課題等	<p>次年度以降、同様の実践を行うためには、コロナウイルス感染症に関する対策を引き続き行う必要があると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2校時続けて行う場合の休憩時間の過ごし方</li> <li>1回の講座における児童の人数</li> <li>車いす試乗の際の除菌</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	児童たちにとって、実体験の伴う貴重な学びの場となった。次年度も同じように実施していきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立城北小学校 】

1 実践テーマ	I · II · (III) · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 73人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○車いす体験を通して、障がいのある人やお年寄りの立場に立って考え、行動しようとすることができる。</p> <p>○パラリンピック競技用車いすを知り、障がい者スポーツに対する理解を高めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。</p>
5 取組内容	<p>1 橋本エンジニアリングさんのお話 [9月7日13:30~15:10]</p> <p>(1) 身近なユニバーサルデザイン</p> <p>(2) 車いすの種類 (一般用・競技用車いす)</p> <p>(3) パラリンピック競技で活躍している選手の紹介</p> <p>2 体験活動</p> <p>(1) 車いすの扱い</p> <p>(2) 車いす体験</p>   

	<p>3 感想発表</p> <p>(1) 車いす体験を通して感じたこと (2) パラリンピックについて思うこと</p> <p>4 事後指導</p> <p>(1) 学習カードを活用し、活動を振り返る。 (2) お礼の手紙を書く。</p>
6 主な成果	<p>子供の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインは、障がいのあるなしに関係なく、みんなが暮らしやすくするために考えられたもので、身近な所にもたくさんあることがわかった。工夫も大事だけれど、一番大切なことは、思いやりの心で人に優しくすることだと思う。</li> <li>・橋本エンジニアリングさんのお話に「乗る喜びを極める」という言葉があった。車いすを利用する方の立場に立って、車いすを作っていてすごいと思った。</li> <li>・車いすに乗ったのは初めてだったので、難しいと思ったけど、とても軽くて動かしやすくて驚いた。でも、平らな所ばかりではなく段差やでこぼこの道は動かしにくいと思うから、車いすの人がいたら助けてあげたいと思った。</li> <li>・車いすにはいろいろな種類があることが分かった。競技用の車いすにはブレーキがなかったり、タイヤの大きさが違ったりしていることを初めて知った。橋本エンジニアリングさんで作った車いすを使ってパラリンピックに出場する選手がいることを聞いてびっくりした。パラリンピックの試合を見たいと思った。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすを製作している地元企業の方に講師をお願いした。コロナ禍だったので、予防対策についても連絡・調整し、実践できた。</li> <li>・一般の車いすだけでなく競技用車いすを体験することで、パラリンピックへの関心が持てた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人車いす体験を行うので、どうしても待ち時間が多くなってしまう。時間を有効に使えるようにしたい。</li> <li>・競技用車いすを実際に体験できたことはよかったです、実際に競技している様子をビデオで見ることができたら、より理解が深まると思った。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も総合的な学習の時間「福祉」をテーマに学習を進める予定である。本活動は、体験を通じた学びができるだけでなく、パラリンピックへの理解につながるので、継続して取り組みたい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立城北小学校 】

1 実践テーマ	I · II · <input checked="" type="radio"/> III · IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 73人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ボッチャ選手との交流を通して、生き方や競技に取り組む姿勢を知り、自分の生活に生かす。</p> <p>○パラリンピック種目ボッチャの体験を通して、障がい者スポーツに対する理解を深めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。</p>
5 取組内容	<p>○実施日 9月24日 13:30~15:10</p> <p>1 北澤さんのお話</p> <p>(3) 自己紹介</p> <p>(4) ボッチャの説明</p> <p>2 体験活動</p> <p>(3) ボッチャ体験</p> <p>(4) 北澤さんに挑戦</p>   

	<p>3 感想発表</p> <p>(2) ボッチャ体験を通して感じたこと</p> <p>(2) 北澤さんへ伝えたいこと</p> <p>4 事後指導</p> <p>(3) 学習カードを活用し、活動を振り返る。</p> <p>(4) お礼の手紙を書く。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北澤さんは身体に障がいがあっても、目標をもってボッチャに取り組んでいる。どんな困難に直面しても、前向きにチャレンジする姿は、子供たちに良い刺激となった。</li> <li>・障がいに負けず正確にボールをコントロールする北澤さんの姿に尊敬とあこがれの気持ちを持った子供が多かった。障がいを持つ方への見方が変わってきたようだ。</li> <li>・最初は感覚だけでボールを投げていた子供たちであったが、次第にグループ内で「どこに投げるとよいのか」「どうすれば得点が上がるか」などの戦略を話し合いながら夢中で活動する姿が見られた。</li> <li>・ボッチャ体験を通して、自然に助け合い励まし合う姿が見られた。学級づくりにも役立つ競技だと感じた。</li> <li>・ボッチャは、障がいの有無、年齢等に関係なく簡単に楽しむことができるスポーツである。運動が苦手な子供も楽しんで取り組むことができた。しかも、作戦を工夫することでより競技を楽しむことができる。総合的な学習の時間で学んでいる「福祉」の考え方につながると感じた。</li> <li>・パラリンピックでは、実際に競技しているところを見たいという子供の感想も多く、本活動を通してパラリンピックへの関心が高まった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にボッチャのルール説明の動画を視聴することで理解の手助けとなった。</li> <li>・実際にボッチャ選手として活躍している方に講師を依頼することで、活動の意欲付けが図れた。</li> <li>・クラスごとに時間を分けて実施したので、体験活動が充実し子供たちの満足感につながった。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に実施したが、体育館が暑かった。実施時期を工夫したい。</li> <li>・どんな人でも楽しめることを体感できるように、例えば利き手ではない方の手で投げるとか、椅子に座ったまま投げるなどの工夫をしてもよかったです。そうすることで、互いに思いやる言動が増えしていくと思う。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉教育とパラリンピック体験は、相互に関連がある。学習を通して、子供自身が福祉のあり方やパラリンピックのねらいについて考える機会としていきたい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立城北小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	2年生 78人 6年生 71人 3年生 84人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 体育 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	○パラリンピック種目ボッチャの体験を通して、障がい者スポーツに対する理解を高めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>○実施日 12月16日(3年生)、12月18日(6年生)、 1月25日(2年) 各2时限</p> <p>1 松澤先生のお話</p> <p>(1) ボッチャクイズ (2) ボッチャの説明</p> <p>2 体験活動</p> <p>(1) 準備運動 (2) ボッチャ体験</p>  

	<p>3 感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ボッチャ体験を通して感じたこと</li> </ul>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2、6年生は初めてボッチャを知った子供が多かったが、すぐにルールを覚え、グループの対抗戦で盛り上がった。ゲームを繰り返すことで、「どこに投げるとよいのか」「どうすれば得点が上がるか」などグループの仲間と作戦を立てながら取り組む姿が見られた。</li> <li>• 最後までどちらが勝つかわからないので、一球投げるごとに歓声が上がり、集中して取り組むことができた。終了後「またやりたい。」という感想が多く聞かれた。</li> <li>• ボッチャ体験を通して、自然に助け合い励まし合う姿が見られた。運動が苦手な子供が活躍して脚光をあびる場面もあり、互いを認め合う機会ともなった。学級づくりにも役立つ競技だと感じた。</li> <li>• 多様性やパラスポーツのおもしろさを感じた。</li> <li>• 実際に競技しているところを見たいという子供の感想も多く、本活動を通してパラリンピック競技への関心が高まった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年度も同じ講師に依頼したこともあり、事前打ち合わせがスムーズにできた。</li> <li>• 講師が、導入でボッチャクイズを行い、楽しく学ぶ工夫をしてくださったので、意欲付けにつながった。</li> <li>• クラスごとに実施したり説明時間を短縮したりすることで、体験時間を十分に確保した。その結果、ボッチャに対する理解が増し、充実感を味わうことができた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1回体験して終わりではなく、継続して行ったり異学年や地域の方々との交流に活用したりすることで、ボッチャを広めていきたい。</li> <li>• ボッチャを通して、障がい者理解や多様性、個性の尊重などにつなげる工夫をしていきたい。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 継続して行うことで教育効果も高まると思われる。来年も継続して実施していきたい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立城北小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input type="radio"/> V (複数選択可)												
2 実施対象者 (学年・人数)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1年生</td> <td style="width: 33%;">85人</td> <td style="width: 33%;">2年生</td> <td style="width: 33%;">78人</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>84人</td> <td>4年生</td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>70人</td> <td>6年生</td> <td>71人</td> </tr> </table>	1年生	85人	2年生	78人	3年生	84人	4年生	73人	5年生	70人	6年生	71人
1年生	85人	2年生	78人										
3年生	84人	4年生	73人										
5年生	70人	6年生	71人										
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( 読書活動 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>												
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックの歴史やスポーツ関連の本、日本文化の魅力を実感する本や各国を知るための本などを通して、読書の幅を広げる。												
5 取組内容	○オリンピック・パラリンピック関連の図書を図書館に配架し、自由に読むことができるようとする。 												
6 主な成果	・読書を通して、オリンピック・パラリンピックについての興味・関心を高めることができた。また、選手の伝記から、夢に向かって努力することの大切さを学んだ。												
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・オリンピック・パラリンピック関連の図書の中から、幅広いジャンルを選書した。												
8 主な課題等	・選手の伝記をもとに、道徳の教材開発ができるとよい。												
9 来年度以降の実施予定	・幅広い読書経験をしてほしいので、継続した取組を希望したい。												

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立中ノ町小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人數)	4学年児童 55名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( ) ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	○パラスポーツの1つであるブラインドサッカーの体験を通して、パラスポーツは個性を尊重し、様々な人がスポーツを楽しむことができるものであることを知り、パラスポーツを親しんだり、他者の気持ちを考え行動することの大切さに気付いたりすることができる。
5 取組内容	<p>講師：常葉大学 神力亮太 助教 日時：10月14日（水）</p> <p>(1)パラスポーツ・パラリンピックについての講話 パラスポーツやパラリンピックについて、映像を交えながら講話を聞いた。パラスポーツは個性を尊重し、それぞれが楽しむことができるスポーツであることを学んだ。</p>   <p>(2)ブラインドサッカーの体験 パラスポーツの1つであるブラインドサッカーの体験をした。アイマスクをして運動することの難しさに気付き、他者に対する思いやりの心をもって、サポートしてあげることの大切さを学んだ。</p>

	
6 主な成果	○普段、なかなか体験することができないパラスポーツに触れることで、実感を伴った気付きになった。様々な人がスポーツを楽しむことができるようにするために、いろいろな手段や方法があることを学ぶことができた。
7実践において工夫した点(事業の特色)	総合的な学習の時間と関連させて進めたことで、内容把握や理解に役立った。
8主な課題等	本事業を行う際に、単発で行うよりも、他の学習との関連を考えて進めていくと、より理解が深まると思われる。
9来年度以降の実施予定	教育課程との関連をもたせながら、来年度以降も実施していくたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立中ノ町小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	5年生児童 72名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	○持続的な開発目標(SDGs)の達成に向けて、スポーツという観点から多くの実践方法があることに気付き、自分たちにできることを考えることができる。
5 取組内容	<p>講師：常葉大学 木村佐枝子 准教授            学生ボランティア 2名            日時：10月5日（月）</p> <p>(1) スポーツSDGs すごろくの体験</p> <p>「スポーツ SDGs すごろく」の体験をした。進んだマスに書かれた内容のクイズを解いた。楽しみながら SDGs やオリンピック・パラリンピックに関する知識を深めることができた。</p>  <p>(2) スポーツ SDGs についての講話</p> <p>すごろくの内容についての解説を含めて、スポーツ SDGs についての講話を聞いた。SDGs の達成に向けて自分たちにできることや、SDGs とスポーツとの関わりについて考えるきっかけになった。</p>

		
6 主な成果	OSDGsとスポーツ、SDGsとオリンピック・パラリンピックのつながりについて学ぶことができた。SDGsがいろいろな方面と関連があり、自分たちにできることがたくさんあるということに気付くことができた。	
7実践において工夫した点(事業の特色)	総合的な学習の時間の出前講座として、環境教育に関連した内容になるように講話をお願ひした。	
8主な課題等	総合的な学習の時間の中で SDGsについて事前に学習をしていたため、より理解を深めることができた。出前講座として単発で行うよりも、他の学習との関連を持たせるとよい。	
9来年度以降の実施予定	教育課程との関連をもたせながら、来年度以降も実施していくたい。	

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立中ノ町小学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	6学年児童 58名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ 陸上指導 ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	○運動に携わる仕事に就いている方の生き方や考え方につれて、子供たちの夢と希望を育むとともに自分自身の生き方について考え、よりよく生きようとする意欲を高める。 ○運動会に向けて、速く走るために体の使い方について学ぶ。
5 取組内容	<p>講師：TOMORUN 中川智博代表 鈴木義啓監督 日時：10月23日（金）</p> <p>(1) 陸上指導</p> <p>「速く走るコツ」について、解説をしてもらった。「姿勢」「目線」「ひざの出し方」の3点について、実演を交えて教えてもらった。</p>  <p>(2) 生き方講座</p> <p>講師のお二人から「陸上に関わってきたこれまでの生き方」、「夢や目標」について話をしてもらった。講師のお二人の悩みや挫折などの経験についてや、今までの考えにとらわれることなく「新しいことを新しいやり方で取り組む」大切さについて、話を聞くことができた。</p>

	 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○陸上の専門的な知識や技能について指導していただいたことで、運動会への意欲が高まったり、陸上競技自体に今まで以上に興味をもった子が多くいた。</li> <li>○日本選手権優勝という経験をもつ講師のお二人の話を直接聞くことができ、運動という分野で活躍する人の生き方や考え方につれ、自分の生き方や考え方の幅を広げることができた。</li> </ul>
7実践において工夫した点(事業の特色)	総合的な学習の時間の体験活動として、陸上指導だけでなく、講師のお二人には運動に携わる人としての生き方や考え方についての講話をしてもらった。
8主な課題等	今年度は運動会が11月開催だったため、陸上の技能について行事との関連を図ることができた。しかし、来年度以降は5月下旬の開催にもどるため、行事との関連についても考える必要がある。
9来年度以降の実施予定	教育課程との関連をもたせながら、来年度以降も実施していくたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立中ノ町小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input type="radio"/> III · <input checked="" type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1~6年児童 全校児童 353名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 (図書室での本や資料の展示)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心を高める。
5 取組内容	<p>(1)図書室に特設の展示コーナーを設置した。</p> 
6 主な成果	○図書やパネルが図書室入口に設置されたことで、オリンピック・パラリンピック及びスポーツ全般への関心が高まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	図書室の入口に紹介のパネルと本を設置したため、足を止めてパネルを見たり、本を手に取って読んだりする子がいた。
8 主な課題等	校内の貸出システムに登録されていない本だったため、図書室での閲覧のみに限定されてしまった。気軽に借りることができる環境を整える必要があった。また、本の紹介や周知に力を入れて、関連図書への興味をもたらせるとよいと感じた。
9 来年度以降の実施予定	オリンピック・パラリンピックの実施に合わせて、図書室にある関連図書を児童に紹介していくようにしたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立花川小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短距離走指導：4・5・6年生 19名</li> <li>・「けがをしないで楽しく走る」講座：全学年39名</li> <li>・「持久走わくわく」講座：全学年39名</li> <li>・オリンピック・パラリンピック関連図書・展示コーナー開設：全学年39名</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（体育科）</li> <li>② 行事名（ ）</li> <li>③ その他（ 部活動 ）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名（ ）</li> <li>② その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックに関連する陸上競技の練習を通して、陸上競技の体の動かし方を学ぶとともに、生涯を通じてスポーツや体を動かすことに親しむことのできる児童の育成に努める。
5 取組内容	<p>1 短距離走の指導（4・5・6年19名が参加）</p> <p>○実施日 10月2日 部活動</p> <p>短距離走の指導を通して、走り方の技術を学ぶと共に、陸上競技の魅力に触れ、運動の楽しさを実感することを目的として、短距離走講座を実施した。講師として、2010年の三段跳び日本チャンピオンであり、現在は陸上競技指導者として活躍される、株式会社 TOMO RUN の鈴木義啓様をお迎えした。</p> <p>(1)事前打ち合わせ</p> <p>メールで日程調整を行った。また、本校での活動の意図を伝え、指導内容の確認を行った。</p> <p>(2)事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上部の部活指導の中で、短距離走のポイントを説明し、練習に取組んだ。</li> </ul>

(3) 実践

- ・講師である鈴木義啓様の陸上競技に対する思いを伺う。
- ・短距離走で大切なことについて説明を聞く。また、実際に体を動かしながら理解する。
- ・スマールステップで練習を行い、技術を身に付ける。  
(姿勢・目線・膝の上げ方・地面を押すイメージなど。)



(4) 事後学習

- ・体験した感想を発表し合った。
- ・振り返りシートに感じたことや考えたことを記入した。

2 「けがをしないで楽しく走る」講座（全学年39名が参加）

○実施日 10月30日 11:15～14:20

けがをしないで運動するための体の動かし方を学ぶことを通して、体を動かすことへの意欲を高めることを目的として、「けがをしないで楽しく走る」講座を実施した。講師として、常葉大学陸上サークルの選手であり、理学療法を学ぶ以西昭海選手（四国総体 1500m 6位入賞、ジュニアオリンピック 3000m 出場）・酒井雄飛選手・鈴木菜月選手をお迎えした。

(1) 事前学習

- ・持久走カードを配布し、12月に行われる校内持久走記録会に向けて、各学級で意欲付けを行った。

(2) 実践

- ・長距離走のフォームについての説明（手の握り方、腕の振り方など）を受けた。
- ・ドリルと呼ばれる長距離走を走る際に行う準備運動を体験した。

- ・腕の振り方を意識して3～5分間走を実施した。



### (3)事後学習

- ・体験した感想を発表し合った。
- ・振り返りシートに感じたことや考えたことを記入した。

### 3 「持久走わくわく」講座（全学年39名が参加）

○実施日 11月17日 9:25～11:05

持久走の楽しさを知るとともに、練習に役に立つ体の動かし方を学ぶことを目的として、「持久走わくわく」講座を実施した。講師として、(株)杏林堂薬局 スポーツ事業の中尾勇生様（ハーフマラソン元日本代表選手・世界ハーフマラソン5位・現静岡産業大学の陸上部コーチ）をお招きした。

#### (1)事前学習

- ・持久走カードを配布し、12月に行われる校内持久走記録会に向けて、各学級で意欲付けを行った。
- ・校内持久走記録会の1か月前に、実際に走る距離で試走を行い、タイムを測定した。測定タイムを元に、自分の目標を立て、その目標を達成するために、具体的にどのような練習を行うかを考える機会を設けた。

#### (2)実践

- ・長距離走に取り組む前の準備体操について指導していただいた。（全身の部位を意識してほぐしていく。）

- ・体を使った運動遊びを行った。
- ・20m程度の距離を、様々な体の動かし方で走り、長距離走を走る際に意識すると良い体の動かし方を学んだ。
- ・インターバルトレーニングを行うとともに、一人でも持久力を高めることのできるトレーニングについて指導いただいた。



### (3)事後学習

- ・体験した感想を発表し合った。

### 4 オリンピック・パラリンピック関連図書・展示コーナー開設

- ・オリンピック・パラリンピックについてのパネルを、協議会から貸与していただいた。パネルは、子供たちの目に付きやす

	<p>すい児童昇降口に展示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会より提示された貸与図書リストの中から、貸与したい図書を選んで申請し、貸与していただいた。</li> <li>オリンピック・パラリンピックに関する図書を調べ、購入したい図書のリストを作成し、協議会へ申請した。</li> <li>本校から提出したリストを元に、協議会に図書を購入していただき、貸与していただいた。</li> <li>図書室の受付の隣に、オリンピック・パラリンピック関連図書貸出コーナーを設けて、子供たちへの貸し出しを行った。</li> </ul> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技についての専門的な指導を受けることにより、運動技能力が高まった。</li> <li>実際に選手である方から教わることにより、もっと練習して上手になりたいという意欲が高まった。講義の中で教えていただいたことを、昼休みに子供同士で教え合いながら練習する児童の姿が見られた。</li> <li>選手との交流の中で、陸上競技への理解を深めることができた。</li> <li>子供たちの「もっといろいろな運動に挑戦したい」等、学習意欲を高めることができた。</li> <li>図書室にオリンピック・パラリンピック関連図書の貸出コーナーを設けたことで、多くの子供たちが書籍を通じてオリンピックやパラリンピックについての知識を深めることができた。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模校であることのメリットを生かし、時間や学年団を分けて計画することで、コロナ禍においても講師を招聘して、多くの児童に競技を体験する機会を設けることができた。また、子供たち一人一人に十分な運動量を確保することができた。</li> <li>校内行事や体育科の学習内容との関連を考えて、事前学習の中で児童への短距離走や持久走の運動に目標を持たせ、意識付けを行った。事前に目標を持ったことで、実際に選手から教えていただく際に目的意識を持って意欲的に運動に取り組むことができた。</li> <li>毎週水曜日の朝の体力アップの時間に、講座で教わったことを再度練習する場を設けたことで、教わったことをまた思い出して練習することができた。</li> <li>オリンピック・パラリンピック関連図書を、図書室の目立つところに置き、誰でも気軽に借りられるようにした。その結果、多くの子供たちが本を借り、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。</li> </ul>

8主な課題等	<p>講師を招聘して様々な講座を設けたが、オリンピック・パラリンピックが延期になったことにより、どうしてもオリンピック・パラリンピックへの意識付けが上手くいかなかった。本来であれば今年度の計画は、昨年度の取組を深化させて「パラリンピックに関連のある障がい者スポーツの体験活動を通して、心の成長を育む」とともに、オリンピック・パラリンピックに一層親しむことを目的として、聖火リレーの応援をしたり、オリンピックの歴史や意義を学ぶ授業などを行ったりする予定であった。コロナ禍の影響により、1 学期に計画していたことが計画通りにいかなくななり、見通しの不透明な中で、2 学期に再計画を行うことになった。</p> <p>2 学期に再計画する際に、すでに校内で予定された行事や活動があるために、オリンピック・パラリンピック教育だけに特化して計画を組み込むのが非常に困難な状況となった。そこで、新しく内容を盛り込むのではなく、2 学期にすでに計画している陸上部活動の指導や、校内持久走記録会の練習と関連させて行うことにして軌道修正した。体の動かし方や運動そのものへの意欲付けを重点として取り組んだことで、結果として上記に述べたような多くの成果を得ることができた。しかし、次年度の計画に当たっては、先行き不透明なコロナ禍の影響に振り回されないよう、今年度上手くいった取組をベースにして、行事や教科と連動させながらオリンピック・パラリンピック教育を行っていく必要があると思われる。</p> <p>また、今年度の取り組みにおいては、コロナウィルス対応により、学校によって対応がまちまちであった。そのため、他の推進校の取組を生かしたり、情報交換・共有を行ったりすることができなかつた。他校との連携をもっと円滑に行うことができれば、制限のある中での活動においても、もっと有効な活動を行うことができたと思う。したがって、情報共有については、今後も課題であると考える。オリンピック・パラリンピック教育推進事業について推進校同士が横断的に連携し、独自のノウハウや情報を共有して今後の道筋を築くことこそが、推進校ではない多くの学校への未来につながる。そして、そうした取組こそが推進校に求められている役割であると考える。</p>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度も引き続きオリンピック・パラリンピック教育推進校に選んでいただくことができた。次年度も継続してオリンピック・パラリンピックの教育推進を行う。</li> <li>・今年度貸与いただいた資料とは別の関連図書を申請し、図書室に引き続き関連図書コーナーを設け、子供たちにオリンピック・パラリンピックを学ぶことのできる場を充実させたい。</li> <li>・今年度成果のあった自校の取組を一層深化させたい。</li> <li>・今年度の他校の取組みを元にして、新たな競技に触れることができる機会を設けたい。</li> <li>・様々な方を講師としてお招きしてお話を聞いたり、交流したりする機会を設けることで、子供たちの視野を広げたい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立伊佐見小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学校6年生・93名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	キャリア教育の一環として、スポーツの世界で活躍している方をお招きし、「夢や希望をもって生きていくことの大切さ」を学び、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育んだり、東京で行われるオリンピックという世界的なスポーツの祭典への関心を高めたりしていきたい。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 令和2年11月18日（水） 10:20～11:05</li> <li>・講師 FCコレチーボ静岡 代表 斯波千秋氏</li> <li>・内容 「将来に向かって」の講話（3学級×1時間） ビデオだけでなく、音が鳴るサッカーボールを使った実演を見ながら、ブラインドサッカーの特徴やルールについて話を聞き、ブラインドサッカーについて興味をもったり、理解を深めたりした。</li> </ul>
6 主な成果	本事業を総合的な学習の時間で行う「キャリア教育」の一環として設定したことで、子供たちが将来の夢やなりたい自分について考えるきっかけになった。 ブラインドサッカーに関わるようになったきっかけやブラインドサッカーへの思いについて聞くことで、サッカーにあまり興味がない子供も、これから自分の生き方について考えることにつながった。また、将来、スポーツの世界で活躍したいと考えている子供にとって、夢や希望が膨らむ機会となった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>本校の6年生は、「生き方」をテーマに、総合的な学習の時間の学習を進めてきている。国や市の発展のために活躍した偉人だけでなく、現在、様々な分野で活躍している著名人など、いろいろな人の生き方について調べてきた。</p> <p>その学習の一環として、ブラインドサッカーに関わる人の話を聞くことで、子供たちが主体的に活動に取り組み、自分の生き方について考えられるようにした。また、講師に、地元のブラインドサッカーのチームの方を招いたことで、子供たちの関心を大いに高めた。</p>
8主な課題等	<p>今年度、総合的な学習の時間の位置づけで、本事業を行ったが、総合的な学習の時間の目標と一致しない部分もあったと感じた。オリンピック・パラリンピックだけの学習に特化することは、教育課程の中で、教科や領域と関連付けて行うことが難しいので、オリンピック・パラリンピックだけの学習に特化せず、各教科・領域と関連付けながら柔軟に行うべきであると考えられる。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今年度同様総合的な学習の時間を中心に実施を考えていきたいが内容や実施方法に関しては検討していきたい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立伊佐見小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学校4年生・72名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	4年生の福祉教育の一環として、パラリンピックの競技種目を体験することで、障がいをもっている方々が楽しく競い合うスポーツがあることや、パラリンピックという世界的な舞台があることを学び、インクルーシブな社会への関心を高めたり、東京で行われるオリンピック・パラリンピックという世界的なスポーツの祭典への関心を高めたりしていきたい。
5 取組内容	<p>11月9日 9:15~11:05            講話・体験 (2学級×1時間)            講師:FCコレチーボ静岡 代表 斯波千秋氏</p> <p>パラリンピックの競技種目であるブラインドサッカーを児童全員が体験する。ブラインドサッカーのルールや面白さを知ることで、パラリンピックへの関心を高めたり、だれもが楽しく活動できる良さを知ったりする。</p> <p>7月上旬～12月中旬            図書コーナー開設            パラリンピックやUDに関わる書籍を読み、総合的な学習の時間で行っている「福祉教育」へ生かす。パラリンピックの競技種目やルールを知ったり、障がい者と健常者がともに楽しめるスポーツに関する興味をもったりする。</p>

6 主な成果	<p>本事業を総合的な学習の時間で行う「福祉教育」の一環として設定したこと、パラリンピックへと児童の関心をより高める結果となった。児童の振り返りの中では、「ブラインドサッカーを体験して、だれもが楽しめるスポーツがあることを知った。」など、ブラインドサッカーが障がい者の方だけのスポーツではなく、すべての人が楽しめるスポーツであることを、児童は実感を伴って理解することができた。また、「パラリンピックを見て、応援したい。」など、オリンピックだけに注目しがちな子供たちが、ブラインドサッカーの体験を通して、パラリンピックへと目を向けられた良い機会になったことが考えられる。このように、10歳という発達段階で、「共生（インクルーシブ）社会」や「パラリンピック」へと関心をもてたことが、東京オリンピック・パラリンピックに主体的に関わっていくことへつながると予想される。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>子供たちが主体的に取り組めるように、本校の第4学年の総合的な学習の時間で行う「福祉教育」の一環として行った。そのため、教員も系統性を意識して指導ことができた。</p> <p>第3次浜松市教育総合計画では、「自分らしさ」を大切にすることが重視されている。そのため、本事業を通して、ブラインドサッカ一体験の講師の方の「自分らしく生きていること」に直接触れられた経験が、子供たちの「自分らしさ」を見つけていく一歩になると考えられる。また、全体の活動を通して、ワークシートを生かしてキャリア教育につなげることができた。</p>
8主な課題等	<p>今後、東京オリンピック・パラリンピックが行われるため、講師の確保が難しくなると予想される。また、小学校では、オリンピック・パラリンピックだけの学習に特化するのではなく、現在の教育課程の中で、教科や領域と関連付けて行うことが望ましいと考える。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今年度の事業は、4年生の総合的な学習の時間の一環として取り組んだため、来年度以降も、障がい者スポーツ体験を基本として「福祉教育」に関連付け、継続的に行っていきたい。また、他学年において、道徳の教材で扱われているオリンピアン・パラリンピアンの選手の方にも講師として来ていただける機会があれば、活用していきたい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立都田南小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input checked="" type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3・4年(6クラス・124名)を対象に、講師を招き、ボッチャ体験をした。 5・6年(6クラス・142名)を対象に、元プロバスケットボール選手大口氏を招き、講演会を行った。 全校(1年~6年・17クラス・398名)を対象に、ブラジルパラリンピック選手とオンラインにて交流した。
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名( 体育科 ) ② 行事名( ) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名( ) ② その他( )
4 目標 (ねらい)	スポーツを通じて、国際理解や共生社会の理解を学ぶとともに、夢をもち、それを実現していく生き方を考えていく。 学校教育目標「進んで考え、共に学び 未来を拓く 都南っ子」
5 取組内容	<b>パラリンピック種目体験</b> 11月13日20日に実施したボッチャ体験では、ボッチャ日本代表チームのコーチ、櫻井博紀氏と他2名を招き、ボッチャを体験した。コートや用具等、公式の物を用意し、正式な行い方を学んだ。また、ボッチャを通して、共生社会に対しての理解を深めた。  

## 元プロバスケットボール選手との交流

12月9日、大口真洋氏を講師に招き、講話を聞いた。夢に向かって努力することや、失敗してもあきらめないことの大切さについて学んだ。また、シュートやパスなどのバスケットボールを使ったゲームをして、触れ合った。

事後には、講演会の様子を全校児童が見られるように掲示板に掲示したりブログで紹介したりした。



## ブラジルパラリンピック選手との交流

事前に、放送や掲示等でブラジルの国の文化や言葉の紹介や、ブラインドサッカー、交流する選手の紹介について学習した。



12月9日、交流会当日は、ブラインドサッカー選手2名と全校児童と交流を行った。学んだポルトガル語を使って、挨拶をかわした。

事前に子供たちに聞きたいことのアンケートをとり、各学年代表児童が質問した。

	   
6 主な成果	<p>事後には、ケーブルテレビや新聞社などのメディアに取り上げていただき、取り組みを紹介することができた。</p>   <p>ねらいとする、「スポーツを通じて、国際理解や共生社会の理解学ぶとともに、夢をもち、それを実現していく生き方を考えいく」ことや、学校教育目標「進んで考え、共に学び 未来を拓く都南っ子」につながる実践となった。</p> <p><b>ポッチャ体験</b>      「体に不自由がある人も、そうでない人も楽しめるスポーツを学べてよかったです。」      「体験したことがないスポーツだったけれど、ルールを知れて、楽しく体を動かせた。」</p> <p><b>講演会</b>      「自分は失敗したら、すぐにあきらめてしまうことが多かったが、失敗してもそれは自分の財産としてあきらめずチャレンジし続けていきたい。」      「プロで活躍された人と触れ合うことができてうれしかった。自分も大口さんのような人になりたい。」</p> <p><b>ブラジルパラアスリートリモート交流</b>      「地球の裏側の国ブラジルと交流できて、すごいと思った。ブラジルのことをもっと知りたいと思った。」      「交流を通して、今まで知らなかったブラインドサッカーを知ることができた。パラリンピックが身近に感じたし、自分も体験してみたいと思った。」</p>

	「目が見える、見えないではなく、どんな壁も乗り越えて、前を向いてチャレンジする大切さを学んだ。」
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>昨年度から、オリパラ教育を推進していることを生かして、継続して、オリパラ教育について発信した。より深く、国際理解教育を深めることができた。</p>  <p>特別支援学校との交流をしており、並行して活動を実践していくことで、ハンデをもった人もそうでない人も共に生きていく「共生社会」への理解をより深めることができた。</p>
8主な課題等	<p>外部団体との交流になるので、それをつないでくださる、大学や市との連携が欠かせない。</p> <p>また、各クラス、オンラインでつなぐため、事前の研修が大切になる。そして、各教室のICT環境の整備が急務である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今回子供たちが感じたことを、実際に体験することができるようにして、学びがより深まるようにしていきたい。</p> <p>交流した国やスポーツをもとに、オリンピック、パラリンピックでの活躍を紹介していきたい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立砂丘小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input checked="" type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	【講演】全学年 79名 【体験】5・6年生 30名 【ブラジル交流】全学年 79名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（道徳科・体育科）</li> <li>② 行事名（オリパラ講座、ブラジル選手とのリモート交流）</li> <li>③ その他（ ）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名（ ）</li> <li>② その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	パラアスリートの話を聞いたり、ブラインドサッカーを体験したりすることで、パラリンピックへの関心を高める。また、どんなことに対しても、挑戦をしようとする心や周りの人々のことを考えて生活しようとする思いやりの心を育成する。
5 取組内容	<p>◎【オリパラ講座】</p> <p>日時：令和2年10月26日（月）9：25～11：10</p> <p>講師：参天製薬株式会社 インクルージョン推進リーダー 葭原 滋男 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックメダリスト（陸上競技、自転車競技）</li> <li>・ブラインドサッカー元日本代表</li> </ul> <p>(1) 【講演】「パラリンピックから得たもの」</p> <p>①葭原氏の自己紹介</p> <p>ブラインドサッカー、走り高跳び、自転車競技で活躍する葭原氏の動画を視聴したり、パラリンピックで獲得したメダルを児童たちに披露した。</p> <p>②デモンストレーション</p> <p>葭原氏がブラインドサッカーのボールを使い、ドリブル・パス・シュートを実演した。</p> <p>③子供たちへのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何事にも前向きに挑戦することの大切さ</li> <li>・周りに人に感謝の思いをもって生活してほしい</li> </ul>

(2) 【ブラインドサッカーエクスペリエンス】

アイマスクを着用し視覚を遮った状態で活動をした。

5人×6のグループをつくった。

・10mの距離を歩く。

・10mの距離をボールを持って歩く⇒グループ対抗戦

・ボールを蹴って、5m先のコーンに当てる⇒グループ対抗戦

グループに分かれて練習⇒競争の流れで活動を行った。作戦を考える時間もあり、子供たちは、「周りの人が声をかけてあげよう」「自分にできることをしよう」という発言をしていて、自然と協力する雰囲気が生まれた。



◎【ブラジル選手とのリモート交流】

日時：令和2年12月1日（火）9:25～10:10

全校児童が体育館に集まり、パラ陸上のペトリュシオ・フェヘイラ選手（100m）、ハイサ・ホシャ選手（やり投げ）とビデオ会議システムで対話した。

・2選手のリオ五輪の映像を視聴

・ポルトガル語による全員での挨拶、激励

・砂丘小学校の紹介、選手からの自己紹介

・児童からの質問

ニックネームは？ 尊敬している人は誰か？

どうしたら勝てるようになるのか？ メダルの数は？

・選手からの質問

どんなスポーツが好きか？ 将来の夢は何か？

※2選手からは、スポーツは自分の人生そのもの、それ以上の愛すべき存在であること、目標達成のために一生懸命練習していくことが語られた。児童に対しては、自分の目標や夢に向かって過ごしてほしいとのメッセージが送られた。

	 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葭原氏の体験談を聞いたり、実際に競技を経験したりすることでパラリンピックに対する関心が高まった。</li> <li>・視力が不自由でも何事にも前向きに取り組んでいる葭原氏の姿から、挑戦することの大切さを感じることができた。</li> <li>・受け身ではなく、人のためになる行動を進んで行いたいという思いをもった。</li> <li>・東京パラリンピックへの期待感が増し、今回交流した2選手を全校を挙げて応援したい気持ちがわき起った。</li> <li>・障害と向き合いながら、スポーツを通じて、目標を達成しようとする選手の姿や言葉に触れて、児童自身が困難を乗り越えて日々の生活を過ごしていきたいという意欲を持つきっかけとなつた。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>小規模校である点を生かして、全学年で講演を聞くことやブラジル選手とのリモート交流を行うことができた。競技の映像や獲得したメダルを見せていただき、低学年の児童でも集中できた。またデモンストレーションを間近で見ることができたことも小規模校ならではのことだと思う。</p> <p>ブラインドサッカーエクスペリエンスは5・6年生30人に絞って行った。周囲の人がいることへの感謝や思いやりの心をもつことの大切さを活動しながら学ぶことができた。</p>
8主な課題等	<p>今後も継続して学習を行うためには、オリンピック・パラリンピックの学習に特化するのではなく、各教科・領域と関連付けていく必要があると感じた。日本でのオリンピック・パラリンピックの開催は一生に一度かもしれないが、今後のキャリア形成にもつながる学びができるといい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>課題にも挙げたように、各教科・領域と関連付けることで、本事業が子供たちにとって身近なものになると思う。講師や体験内容によって、ねらいや対象学年を決めていきたい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立佐鳴台小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学校4年生～6年生 児童(20名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 (クラブ活動 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	車椅子バスケットの体験を通してパラスポーツについて理解したり、スポーツを楽しんだりする。
5 取組内容	<p>【第1回】9月30日 13:30～14:30 講師: 佐々木雅啓氏</p> <p>○車椅子の操作の仕方の練習</p> <p>○車椅子バスケットのルール説明</p> <p>○車椅子でのボール扱いの練習</p> <p>【第2回】10月7日 13:30～14:30 講師: 佐々木雅啓氏</p> <p>○ゴール下パスでドリブルシュートの練習</p> <p>【第3回】10月21日 13:30～14:30 講師: 佐々木雅啓氏</p> <p>○トーナメント方式で3対3のゲーム</p>  
6 主な成果	馴染みの少ない車椅子を実際に操作することで、楽しさや難しさを実感し、パラスポーツに携わる方の気持ちを想像することができた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>昨年は別のクラブが体育館の半面を使用しており、活動場所が限られ、待つ時間が長かった。その反省をもとに本年度は体育館のコートを半面から全面に変更して使用できるようにしたので、充実した活動を行うことができた。</p> <p>第1回から第3回までが段階的な内容であったため、ほとんどの子たちが車椅子を自在に操りスポーツの楽しさを感じることができた。</p>
8主な課題等	<p>昨年よりは待つ時間が短くなったが、それでも車椅子が6台だけなので、待ち時間は多くなりがちだった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>来年度以降もパラスポーツ（車椅子バスケットやボッチャ）体験をクラブ活動でしていく予定である。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立佐鳴台小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生～6年生 児童（16名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他（クラブ活動） ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	「料理」を通して、外国の食材や異文化に対する理解を図る。また、異学年でグループをつくり協働で活動することにより、他者を思いやる心を育てたり協力することの大切さに気付かせたりする。
5 取組内容	<p>10月21日、クラブ活動の時間に、「料理クラブ」の児童が浜松学院大学の光安アパレシダ光江准教授のゼミとタイアップし、ブラジル料理である「クレピオカ」作りを行う。「クレピオカ」は、南米原産の「キャッサバ芋」から作られる「タピオカ粉」を使ったクレープである。近年日本でブームになっているタピオカドリンクとは違う形での「タピオカ料理」を通して、ブラジルの食文化に親しみをもつと共に、異学年や大学生との交流を深め、他者理解や思いやりの気持ちを育む。</p> <p>(1) 大学生のプレゼンテーションによる、ブラジルの文化や料理の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブラジルの地理的位置や日本との関係</li> <li>• ブラジルの料理「クレピオカ」の紹介</li> <li>• キャッサバ芋やタピオカでんぶんについて</li> <li>• 「クレピオカ」の作り方</li> </ul> <p>(2) 「クレピオカ」作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 異学年で編成した2人組のグループで調理実習</li> <li>• 浜松学院大学の学生とコミュニケーションを図りながら調理実習</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハム＆チーズ」「バナナチョコ」2種類の「クレピオカ」作り</li> <li>・できあがった「クレピオカ」の試食</li> </ul> <p>(3) 感想の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理や試食の感想の交流</li> <li>・浜松学院大学の学生へのお礼</li> </ul> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本校はブラジルやペルー等の外国籍児童が多く在籍しているため、異文化に対して比較的馴染みがある。しかし、ブラジルの料理について見聞きしたことはあっても、実際に食べたり自分で調理したりしたことのある児童は少ないため、体験的な活動が異文化理解に大変効果的であった。</li> <li>○ 調理班を異学年で編成したことにより、上級生が下級生に優しく声を掛け、お互いに助け合いながら活動する場面が多かった。コミュニケーションが増え、他者への思いやりの気持ちをもって活動することができた。</li> <li>○ 大学生が調理のサポートに入ってくれたことで、コミュニケーションを取りながら、楽しく安全に活動することができた。</li> <li>○ 来年度行われる東京オリンピック・パラリンピックで、日本だけでなく、ブラジルをはじめとした他の国にも注目して応援してみようという気持ちをもつ児童があった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調理実習を通じた、体験的な学び。</li> <li>○ 浜松学院大学とのタイアップによる効果的な活動。</li> <li>○ 異文化理解のための、大学生によるプレゼンテーション。</li> <li>○ 調理班の編成を工夫することによる異学年交流の充実。</li> </ul>

8主な課題等	設定した時間が60分間と短かったため、講座と調理をじっくりと行うことができなかった。90分間位時間を確保しておきたかった。
9来年度以降の 実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時間配分が難しく、講話と調理を考えるとやはりクラブの時間内に行うのは難しいと感じる。</li> <li>○ 食物アレルギーをもつ児童への対応が必要である。</li> <li>○ 講師である大学との連絡・調整の時間の確保が必要。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立佐鳴台小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生(93名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技に使用される車椅子の製造をしている企業の方にパラリンピックとの関わりや福祉等について話を聞くことにより、共生社会について関心をもち、これから社会のために貢献しようとする心を育てる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユニバーサルデザインについての説明            ピクトグラム マーク            エレベーター 自動販売機            点字ブロック 車いす</li> <li>• 橋本エンジニアリングの企業の取り組み (11月26日)            世界最軽量の車いすづくりについて            グッドデザイン賞受賞まで            乗る喜びを極めるという合言葉            パラスポーツ・パラアスリートの紹介</li> <li>• 参加全児童 車いす体験 (11月26日)            一般的な車いすとの違いを体験            実際に持って、軽さを実感</li> </ul>

	 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックに対する興味・関心が芽生えた。</li> <li>・ユニバーサルデザインについての理解が深まった。</li> <li>・相手のことを思いやるという心を再確認できた。</li> <li>・支える側の思いや願いを詳しく知ることができた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にパラアスリートが活躍している様子を紹介し、パラアスリートからのサイン色紙もいただいたことで、児童にとってより身近で興味・関心の高まる結果になったこと。</li> <li>・児童とやりとりしながら進め、児童の理解や反応を見ながら講話を聴くことができたこと。</li> <li>・</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が紹介してくださった動画の文字に、学習していない漢字が多くかった。音声がなく、視覚からの文字情報しかなかつたので、動画の内容がよかつただけに、児童が理解しきれなかったのが残念に感じた。</li> <li>・</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	4年生は総合的な学習の時間に「福祉」をテーマに学習をしているので、引き続き4年生で「ユニバーサルデザイン」や「パラアスリート」に関する講話を伺いたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立佐鳴台小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 (91名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( 学級活動 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○パラリンピック種目（卓球）への関心を高める。</p> <p>○ブラジルパラリンピック選手の生き方、練習の取り組み方、大会に向けての思いや願いを知る。</p>
5 取組内容	<p>ポルトガル語で選手にあいさつをする。</p> <p>○自己紹介する。（選手）</p> <p>○選手の試合の様子をDVDで視聴する。（児童 選手）</p> <p>○児童が質問し、選手が答える。（児童 選手）</p> <p>○学校の一日を紹介する。（児童）</p> <p>○自分が頑張っていることを発表する。（児童）</p> <p>○応援メッセージを言う。（児童）</p> <p>ポルトガル語で選手にお別れのあいさつをする。</p>  

	
6 主な成果	<p>パラリンピックの卓球がどのような競技か知ることができた。また、練習の様子や日々努力していること、思いや願いを聞くことができた。浜松市と友好関係にあるブラジルの国の選手を応援しようという気持ちが芽生えた。</p> <p>また、事前学習で他の種目のパラ競技も視聴したことにより、アスリートたちの優れた技能、運動能力を知り、パラリンピックに興味・関心をもつようになった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>事前に関係大学の方々や浜松市ICT関係の方に本校に来校していただき、インターネット環境を確認していただいた。</p> <p>卓球のパラリンピックの様子はもとより、卓球の試合を知らない児童もいたため、DVDを借り、リモート交流をする選手の練習の様子を視聴させ、事前学習を行った。</p> <p>当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体育館に集合する形ではなく、各教室から「google meet」を使って5ヶ所同時中継を行った。</p> <p>本校には、外国につながる児童が多く、ポルトガル語を話せる児童もいる。児童の特性を生かして活躍の場面を設定した。</p> <p>始めの挨拶から終わりの挨拶まで司会を含めてすべて児童による授業展開を行った。担任教師はパソコン操作と時間配分調整のみを行い、児童の自発的活動を支えた。</p>
8 主な課題等	現地ブラジルと12時間の時差があるため実施時間を制限しての活動であった。9:25からのスタートであったが、選手の方にはどうしても夜遅い時間になってしまった。
9 来年度以降の実施予定	今回はパラリンピック種目の「卓球」について学んだが、他にもパラリンピック種目は多くあり、児童が知らないパラ競技が多くある。競技の内容や選手の努力等、生の声を聞く機会はとても貴重である。来年度以降も選手とのリモート交流の機会があれば、参加したい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立雄踏小学校 】

1 実践テーマ	III (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	6学年児童150名 5学年児童152名 教員10名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間・体育科)            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する指導として、パラスポーツを体験したり、アスリートの講話を聴いたりすることを通して、スポーツの意義や価値等に触れさせる。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>① DVDを活用し、ボッチャの内容を知る。            ② 講演者 北澤和寿さんの経歴を知り、講話や体験活動への関心を高める。</p> <p>(2) ボッチャ体験・講話</p> <p>日時：2020年10月7日 5・6時限（5年生）            2020年11月18日 5・6時限（6年生）            講師：北澤 和寿さん</p> <p>① 講話 「自分らしく生きるために」            &lt;5年&gt; &lt;6年&gt;</p> 

	<p style="text-align: center;">② ボッチャ体験活動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;5年&gt;</p>  </div><div style="text-align: center;"> <p>&lt;6年&gt;</p>  </div></div>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ボッチャ」という競技を体験したことでの「ボッチャ」という種目はもちろんパラリンピックに対しても興味をもつ子供が増えた。</li> <li>○ 「ボッチャ」の楽しさを体感するとともに、誰にでもできる競技であることを知り、玉入れの球を利用して、囁休みに遊ぶ子供たちがいた。</li> <li>○ 障害をもっていても目標をもち、充実した生活を送っている人がいることを知り、自分たちの励みになった。また、自分の目標をもつことの大切さに気付いた子が多くいた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>全校舎、設備がソリュアフリーであり、多目的教室が3教室あるの本校では、障害をもった講師の方々には実施しやすい環境である。また、それを生かして、子供たちのパラスポーツへの関心を高めることができた。</p>
8 主な課題等	<p>子供たちは競技に興味をもち、楽しそうに取り組むことができた。ただ、「書く時間」「活動する時間」「話を聞く時間」のメリハリがついていると進行がよりスムーズにできるのではないかと感じた。そうすれば、1学年2時間の実施時間ではなく、1学年1時間の実施も可能だと考える。</p> <p>また、実施に当たってはその場にいる教師が「できていない子供」に対して声掛けをすることが大切だと思った。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>有意義な学習であるため来年度の教育計画にその目的を明記し、他の行事と検討しながら実施する予定である。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立雄踏小学校 】

1 実践テーマ	III (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人數)	4学年児童161名 教員5名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )            ② 行事名 (「つなごう福祉の心と手」)            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	様々な人が暮らしていることやその人々を支える仕組みがあることに気づき、それぞれの立場、思いや願いを知るとともに、支え合う社会の大切さを理解する。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>① 総合的な学習の時間「つなごう福祉の心と手」の学習についてのオリエンテーション            ② 手話について調べる・点字体験            ③ 元パラリンピックスキー選手の講話            ④ 資格に障害を持った方との交流と盲導犬の役割を知る活動</p> <p>(2) 体験・講話</p> <p>日時：2020年11月2日 1～5時限            講師：常葉大学            健康プロデュース学部 心身マネジメント学科            神力 亮太 助教</p> <p>① 講話 パラリンピック及びブラインドサッカーについての講話            ② ブラインドサッカ一体験            ブラインドサッカーのルールを聞いた後、アイマスクを着用し、転がると音の出るボールを使って、ブラインドサッカーの体験をした。アイマスクを着用しないガイド役の子供が手をたたき、ボールの場所を伝え、協力して簡易ゲームを行った。</p>

	(講話・アイマスク体験)
	   
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師の方からパラリンピックの話を聞くことにより、パラリンピックに関心をもち、実際の選手の試合を観戦し、応援したいという感想を持つ子供が多く見られた。</li> <li>○ ブラインドサッカーを体験することにより、視覚障害をもつた方でもサッカーに取り組むことができ、スポーツの楽しさを味わえることができる素晴らしさに気付くことができた。</li> <li>○ ガイド役を体験することで、パラリンピックのスポーツは、サポートするガイドの役割が重要であることを実感し、助け合うことの大切さについて考える良い機会となった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	全館バリアフリーの環境や肢体不自由児の学級が共存している本校の環境を生かし、パラスポーツへの関心を高めていくことができた。総合的な学習の時間のテーマである「つなごう福祉の心と手」の体験活動として、手話、点字体験、元パラリンピックスキー選手の方の講話、視覚に障害をもった方との交流に加え、パラリンピック種目の体験を実施することで、豊かな学びの実現を図った。
8 主な課題等	コロナ禍という特異な状況でなければ、子供たちだけでなく、保護者や地域の方々にも周知し、子供たちと一緒に講話を聞いたり、体験したりすることで、パラリンピックの魅力を地域住民にも発信することができると思われる。
9 来年度以降の実施予定	有意義な学習であるため来年度の教育計画にその目的を明記し、他の行事と検討しながら実施する予定である。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立雄踏小学校 】

1 実践テーマ	V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3学年児童126名 教員4名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 体育科 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する指導として、オリンピック種目を体験したり、アスリートの講話を聴いたりすることを通して、スポーツに対する興味・関心の向上を図る。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>○ 体育科・・・タグラグビーの特徴についての説明 簡単なルールの説明 簡易ゲームの実施</p> <p>(2) 体験・講話</p> <p>日時：2021年1月25日 3・4時限 2021年1月29日 3・4時限</p> <p>※ 1学級、1時間で実施</p> <p>講師：ヤマハ発動機ジュビロ普及担当 藤井達也様</p> 

	
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師からオリンピックやラグビーに関する話を聞くことを通してオリンピック種目であるラグビーへの興味をもった。</li> <li>○ どうすると勝てるかだけでなく、どうすると皆で楽しいゲームになるのかを考えさせながらの指導で、楽しく体験できた。</li> <li>○ タグラグビーの基本的なルールを確認でき、その後のゲームに生かした。</li> <li>○ 実際にパスを見せていただき、ラグビーの迫力に感動したり、プレーに生かそうとする子がいた。</li> <li>○ その後の体育科の時間において体験したことを生かして、タグラグビーのゲームに進んで取り組むことができるようになった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>体育科の実施種目と合致していることや教科の年間計画をもとに計画、実施しやすい。 今年度から指導要録が改訂され、新しい種目に対しての興味・関心を高めるために実施した。また、これによってオリンピックに対する関心を高める良い機会とした。</p>
8 主な課題等	特に課題はなく、1学級ごとの実施が有効だった。
9 来年度以降の実施予定	有意義な学習であるため来年度の教育計画にその目的を明記し、他の行事と検討しながら実施する予定である。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立伊目小学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人數)	1年生9名 2年生13名 3年生24名 4年生24名 5年生27名 6年生20名 計 117名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間・体育）          ② 行事名（ ）          ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）          ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックのことについての講演や種目体験、図書コーナーの設置をとおして、オリンピック・パラリンピックについての理解と関心を高めるとともに、インクルーシブな社会（共生社会）を築く一員としての意識を高める。
5 取組内容	<p>1 オリンピック・パラリンピックの意義について学ぶ</p> <p>国際オリンピック委員会公認教材「オリンピック価値教育の基礎 (OVEP)」や国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」等を活用し、オリンピック・パラリンピックについて学んだ。</p>   <p>2 あすチャレ!スクール 2020 実施          日時：2020年9月30日（水）10:25-11:55          競技：車いすバスケットボール          講師：根木慎志</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 5, 6年生が、根木慎志さん（シドニーパラリンピック車いすバスケットボール日本代表）から話を聴いた。</li> <li>• 車いすバスケットボールのデモンストレーションを見学し</li> </ul>

たり、実際に車いすに乗って操作したりした。



### 3 「OEN-応援フラッグ」プロジェクトへの参加



- 授業や「あすチャレ！スクール」で高めたパラリンピックへの応援の気持ちを、フラッグに書き込んだ。

### 4 図書・展示コーナー設置



- リオオリンピックの映像を展示し、競技への興味をもたせた。
- オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーを昇降口に特別設置した。
- アスリートのすごさを体感できるような展示を行った。
- 「ようい、ドン！スクール」のマスコットイラストを使用してしおりを作成し、図書を読んだ児童に渡した。

6 主な成果	<p>・講師を迎える前に、図書・映像・展示、事前授業を行うことで、オリンピック・パラリンピックへの意識を高めてから「あすチャレ!スクール」に臨むことができた。</p> <p>・事前学習や講師の実演や講話から「工夫や支援をすることで、障害のあるなしにかかわらず、スポーツの楽しさが味わえ、自分の限界に挑戦できる！全力で競い合える！」というパラリンピックの考えを体感することができ、インクルーシブな社会（共生社会）への意識が高まっていることを感じた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【参加した児童の振り返りより】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人ならではで、できことがたくさんあることを知りました。</li> <li>・目が見えない人でも点字ブロックがあれば1人で動けるし、周りの人が声をかけて助ければ普通に生活できるということを学びました。</li> <li>・車いすに乗っていても不便ではないこともたくさんあるし、ほとんどがみんなと一緒にすることも分かりました。</li> <li>・障がいになってしまったからこそ気が付くことやできるようになることがあると学んだので、これからはポジティブに物事をとらえたいです。そして、困っている人や悩んでいる人を助けたり、応援したりして元気づけたいです。</li> </ul> </div>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	パラリンピックに関する事前の授業から事後のOENフラッグプロジェクトに至るまで、パラリンピアン（障がいを持った方）が特別な存在ではなく、ちょっとした工夫や支援をすることで、障がいに関係なく、共にスポーツができる、生活ができるということを根底において指導し、インクルーシブな社会（共生社会）への意識を高めることを心がけた。
8主な課題等	新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた活動を縮小して行うことになった。
9来年度以降の実施予定	昨年度と同一講師による講演となった。継続してお願いすることで、より多くの事を学ぶことができた。パラリンピックに非常に深く関わっている方なので、来年度も可能な限りお願いし、パラリンピック大会の現場の話ををしていただきたい。また、他競技についても理解を深めるため、他の講師の講話や他競技の体験活動を行っていきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立井伊谷小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	5・6年陸上部員 50名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )      ② 行事名 ( )      ③ その他 ( 部活動 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )      ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	陸上選手から指導を受けることで、今後の練習方法を学んで生かしていったり、技能の向上を図ったりすることができる。
5 取組内容	<p>日時：令和2年9月1日（火）15：30～16：30      令和2年9月3日（木）15：30～16：30</p> <p>講師：TOMO RUN 2名</p> <p>内容：講師の方から、陸上についての話を聞いた。また、準備運動の仕方や、短距離・長距離の練習方法について教えていただいた。</p> <p>①「陸上競技をなぜやるのか」「陸上競技で大切な考えは何か」など話を聞く。      ②準備運動      ③体をほぐす運動を取り入れながらのダッシュ      ④ 短距離と長距離に分かれて練習する      ④ 整理運動</p>

		
6 主な成果	来ていただいた講師の方が、子供たちのあこがれの存在となり、活動の目標を立てたり、練習意欲の向上につながったりした。また、専門的な知識や練習方法が、担当教員の指導の参考にもなった。	
7実践において 工夫した点 (事業の特色)	「もっと速く走れるようになりたい」など、陸上に対する強い思いをもつてる子が陸上部を希望してくる。そのような子供たちに、陸上部の練習がスタートしたばかり時期に、講師の方から話を聞いたり、直接練習方法を教えていただいたりしたことで、これから練習への意欲を高めることにつながった。	
8主な課題等	準備・片付けなどを含めての時間だったので、教えていただく時間を十分に確保することができなかった。	
9来年度以降の 実施予定	来年度も陸上部の活動が予定されているので、このような事業があるならば、ぜひ継続していきたい。	

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立井伊谷小学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 78名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 体育 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	障がい者スポーツへの知識を深めたり、楽しく取り組んだりすることを通して、福祉について理解を深める。
5 取組内容	<p>日時：令和2年10月5日（月）13：40～15：20</p> <p>講師：浜松ボッチャ倶楽部COOL 北澤和寿氏</p> <p>内容：ボッチャ体験</p> <p>(1) 事前打合せ</p> <p>北澤選手が事前に来校し、打合せを行った。活動の流れ・時間配分・会場の確認を行った。確認後、北澤選手を交え、教員数名がチームに分かれて、実際にゲームを体験しながら、ルールやテクニックなどを教えていただいた。</p> <p>(2) 当日</p> <p>① 講話</p> <p>障がいのことやボッチャとの出会いなどについて話をしていただいた。</p> <p>② ボッチャ体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャのやり方の説明</li> <li>・現役選手の技のデモンストレーション</li> <li>・チームに分かれ、ボッチャの競技体験をする。</li> <li>・北澤選手と代表児童による対戦を行う。</li> </ul>

	   
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉を勉強したうえで、実際に体の不自由な方とのふれあい、一緒に楽しめたことが、「共に生きる」という福祉で大切な視点を理解するのに大きな効果があった。</li> <li>・活動を通して、パラリンピックへの関心を高めることができた。また、障がいのある人を身近に感じることができ、相手の立場で考えることの大切さも分かった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャの体験だけでなく、キャリア教育や福祉教育につなげることができるよう、講師の方の生き方や考え方も子供たちに伝えることができるように、活動内容を工夫した。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた活動時間の中で、ボッチャやパラリンピックへの理解だけでなく、福祉教育の視点をどう取り入れていくか、子供たちに何を伝えていくのかを、明確にして計画を立てていきたい。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も、4年生の福祉教育と関連付けて、継続的に実施していきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立井伊谷小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3年生 57名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 体育 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	現役ラグビー選手から、タグラグビーのやり方を教えていた だくことで、チームの仲間と協力してゲームする楽しさを味わう ことができる。また、身近な地域に実業団チームがあることを知 り、ラグビーに関心をもつことができる。
5 取組内容	<p>日時：令和2年10月16日(金) 9:05～10:45 (クラスごとに45分ずつ実施)</p> <p>講師：ヤマハ発動機ラグビー選手 3名</p> <p>内容：内容：講師の方から、タグラグビーのルールややり方を教 えていただき、実際にゲームを行った。</p> <p>① タグラグビーのボールに慣れる            ② ゲームのルールややり方を知る。            ③ ゲームを行う。</p>
6 主な成果	来ていただいた講師の方が、子供たちのあこがれの存在とな り、活動の目標を立てたり、練習意欲の向上につながったりした。 また、専門的な知識や練習方法が、担当教員の指導の参考にもな った。

	   
7実践において 工夫した点 (事業の特色)	3年生の体育では、「タグラグビー」の学習があるため、現役選手から直接指導していただいたり、話を聞いたりできたことは、ラグビーへの関心を高めるのに大変効果があった。その後に行った授業の中でも、積極的に タグラグビーに取り組む子供たちの姿を見ることができた。
8主な課題等	短い時間での活動なので、より多くの選手の方に来ていただけると、多くの子供たちが触れ合ったり、声を掛け bekommenたりできると思う。
9来年度以降の 実施予定	来年度以降も継続して実施して いきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立三ヶ日東小学校 】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラ関連図書・展示コーナー開設：全学年196名</li> <li>・運動会におけるオリパラに関連した演技：5, 6年児童60名</li> <li>・体育科の授業との関連：4～6年生児童94名</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（体育科）</p> <p>② 行事名（運動会）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>④</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○オリパラに関する図書を紹介したり、展示コーナーを設置したりすることで、スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史について学ぶ。</p> <p>○運動会の演技種目の一部にオリパラに関する内容を取り入れることで、オリパラに興味をもたせたり、スポーツに対する関心を高めたりする。</p>
5 取組内容	<p>1 オリパラ関連図書・展示コーナー開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラについてのパネルは、子供たちの目に付きやすいように児童昇降口に展示した。また、オリパラに関する図書を購入し、パネルと共に展示した。</li> <li>・昇降口のホワイトボードに、オリパラに関する資料やクイズを掲示した。</li> <li>・図書室の受付付近に、オリンピック・パラリンピック関連図書貸出コーナーを設けた。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <span>図書室の「オリパラコーナー」</span> <span>昇降口にパネルを設置</span> </div>

	<p><b>2 運動会におけるオリパラに関する演技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5, 6年生による団体演技の内容の一部に、オリパラに関する演技を取り入れた。</li> <li>・児童一人一人に「スイング扇子（公式）」を購入し、演技で活用した。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>扇を使った振り付け</p> </div><div style="text-align: center;">  <p>色ごとに輪を作る演技</p> </div></div> <div style="text-align: center;">  <p>5色が集まり五輪を表現</p> </div> <p><b>3 体育科授業との関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上運動の「走り高跳び」と「走り幅跳び」の授業において、オリンピック記録保持者を紹介したり、実際に歴代記録を提示したりした。また、それぞれの記録を体感できるように教室前の廊下に資料を掲示した。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div><div style="text-align: center;">  </div></div> <div style="text-align: center;"> <p>「走り高跳び」「走り幅跳び」の五輪記録を体感</p> </div>
<p><b>6 主な成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇降口や図書室にオリパラ関連図書の貸出コーナーを設けたことで、子供たちが書籍を通じてオリンピックやパラリンピックに興味をもつききっかけを作ることができた。</li> <li>・運動会にオリパラに関する演技を取り入れることで、演技者だけでなく、参観していた児童や保護者に対してもオリパラへの関心を高めることができた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック記録保持者と実際の記録を提示することで、スポーツへの興味関心を深めることができた。また、大会には多くの国が参加していることを知り、オリパラの意義について学ぶことができた。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の昇降口に常設されている立ち読みコーナーの一角をオリパラ関連図書コーナーとしたことで、どの児童も気軽に手に取って書籍に親しむことができていた。</li> <li>・学校行事や教科の授業にオリパラ教育を組み込むことで、児童がオリパラについての理解を深めるとともに、行事や教科の学習を一層深めることができた。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、当初計画していた講師を招いての「ボッチャ競技体験」を見送った。オリンピックやパラリンピックを目指している選手との交流（「本物」に触れる経験）を設定することができれば、さらに児童の興味関心を深めることができただろう。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度同様、行事や教科学習とオリパラ教育との関連について再考し、実践していきたい。（総合的な学習、道徳等）</li> <li>・講師を招き、スポーツやオリパラへの興味関心をさらに深めていきたい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立八幡中学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	【講演】1年生131名 発達支援学級47名 【体験】1年生サッカー部員21名、発達支援学級47名 【ブラジル交流】1年生、発達支援学級 160名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（オリパラ講座、ブラジル選手とのリモート交流） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・共生教育の理念のもとで、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築を目指す。 ・夢に向かって工夫していくことで、諦めない心や多様な価値観を学ぶと共に自己肯定感を育てる。
5 取組内容	◎【オリパラ講座】 日時：令和2年9月29日（火）13：30～15：10 講師：参天製薬株式会社 インクルージョン推進リーダー 葭原 滋男 氏 ・パラリンピックメダリスト（陸上競技、自転車競技） ・ブラインドサッカー元日本代表 (1) 講演「パラリンピックから得たもの」 走り高跳びやシドニーパラリンピック自転車競技で金メダルを獲得した時の映像を見せながら、チャレンジ精神、失敗を恐れないこと、諦めないこと、仲間の重要性等を語ってくれた。



(2) 菅原滋男氏によるデモンストレーション（コーン当て）



(3) ブラインドサッカータイム

<発達支援学級生徒>・・・コーン当て

1 グループ4～6人に分かれて、下記①～③の役割を交代しながらボールを蹴り、カラーコーンに当たった回数を競った。

- ①カラーコーンを叩いて位置を教える
- ②アイマスクをしてボールをカラーコーンに当てる
- ③②の足元にボールを置く



<1年生サッカーチーム員>・・・ドリブルシュート

1 グループ4～5人に分かれて、下記①～③の役割を交代しながら行い、シュートが決まった回数を競った。

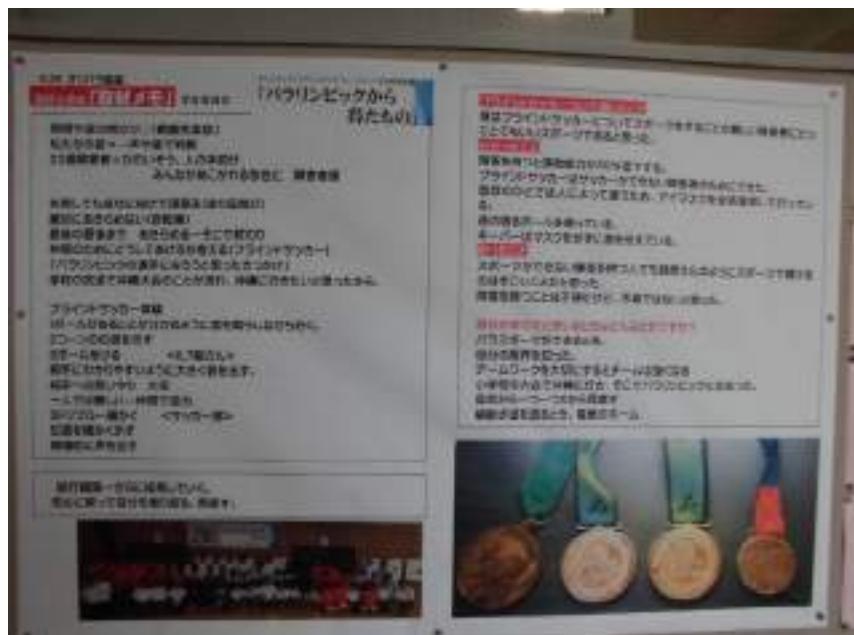
- ①ゴールの位置を教える
- ②アイマスクをしてガイドの声に従ってドリブルシュート
- ③②の足元にボールを置く



(4) 菅原滋男氏へのインタビュー

参加者：1年学年委員

1年学年委員はブラインドサッカータイムに「取材」という形で参加した。体育館での講演、ブラインドサッカータイム終了後、菅原氏へインタビュー形式で話を伺った。その中で、学年委員より菅原氏へ様々な質問が寄せられた。



(5) オリンピック・パラリンピックに関するパネルや図書、葭原滋男氏のプロフィールを廊下に掲示



### ◎【ブラジル選手とのリモート交流】

日時：令和3年1月14日（木）8：30～9：20

1年生と発達支援学級の生徒が体育館に集まり、ボッチャのマテウス選手、エブリン選手とビデオ会議システムで対話した。

- ・2選手の大会でのボッチャの試合の映像を視聴

- ・ポルトガル語による全員での挨拶、激励

- ・選手からの自己紹介

ボッチャの魅力、パラリンピックにかける思い など

- ・生徒からの質問

ボッチャを始めたきっかけは？ ボッチャの醍醐味は？

人との関わりで大事にしていることは？

コミュニケーションをとるときに大切にしていることは？

大切にしている言葉は？

辛かった時に支えてくれた人はいるか？

- ・選手からの質問

どんなスポーツが好きか？

知っているブラジルのスポーツ選手はいるか？

※2選手からは、障害のある生活のなかで、支えてくれた親の存在がとても大きかったこと、ボッチャ競技との出会いが生きていくうえでのモチベーションにつながっていることが語られた。生徒に対しては、感謝の気持ちを持ち続けること、大きな

	<p>好奇心をもって、様々なことに挑戦することで人間としての成長につながっていくことがメッセージとして送られた。</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演の中でパラリンピックの映像を見たり、本物のメダルを見せていただいたりして生徒はそのすごさを実感していた。</li> <li>・実際にパラリンピックに出場し、金メダルを獲得した選手の話を聞くことで、生徒はパラリンピックを身近に感じられた。</li> <li>・ブラインドサッカーエクスペリエンスでは、相手の立場に立って考え、声掛けをしたり協力したりすることの大切さを学んだ。</li> <li>・通常学級においては、総合的な学習の時間の学年テーマ「福祉」を深める大きなきっかけとなった。</li> <li>・東京パラリンピックへの期待感が高まり、今回交流した2選手を応援したい気持ちがわき起こった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は発達支援学級が8クラスあり、毎年、スポーツ祭で交流種目を行ったり、1年生と共同学習を行ったりしている。その特色を生かすことができた。</li> <li>・静岡文化芸術大学は、本校の学区にある大学であり、これまで学生による学習補充ボランティア、防災学習指導支援、授業研修などの交流があり、今回さらなる協力を得ることができた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新型コロナウイルス対策もあり、参加人数が限られてしまった。とても貴重な体験であったので、発達支援学級生徒と1年生だけではなく、全校生徒が聴講、体験できるとよかったです。</li> <li>・日程がなかなか決まらず、当日の「オリパラ講座」のみで終わってしまった。事前・事後学習の時間が多くは取れなかった。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年行われる東京オリンピック・パラリンピックへの生徒の興味、関心へとつなげていきたい。</li> <li>・発達支援学級においては、保健体育の授業とも関連付けて他のパラスポーツも行ってみたい。</li> <li>・今後も静岡文化芸術大学と連携して行えることがあれば検討してみたい。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立蜆塚中学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	中学2年生 134名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 保健体育 )          ② 行事名 ( )          ③ その他 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )          ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナスの感情に向き合い乗り越えようしたり、難しいことがあっても諦めず限界を突破しようとしたりする力を身に付ける</li> <li>・多様性認め、工夫すれば誰もが同じ土俵に立てることに気付く</li> <li>・「仕事のやりがい」や「生きがい」について学ぶ</li> <li>・ボッチャを体験してパラスポーツについて理解し興味を持つ</li> </ul>
5 取組内容	<p>【橋本エンジニアリング様講演会・車いす体験】          11月10日 13:30~15:10.0</p> <p>○仕事のやりがいや困難を乗り越えるための考え方などの講話          ○パラリンピック選手（車いす）についての講話</p>   <p>○車いす体験</p>  

	<p>【浜松ボッチャ倶楽部COOL 北澤和寿 ボッチャ体験】 12月3日 13:30～15:10</p> <p>○ルール説明や見本を見せてもらった後実践 ○質疑応答</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みの少ない車椅子やパラスポーツを実際に体験することで、難しさや楽しさを実感し、パラスポーツに携わる方の気持ちを想像することができた。</li> <li>・自分たちの見ていた世界がいかに狭いものであったかに気づき、多様な多角的なものの見方や考え方をすることの大切さに気づくことができた。</li> <li>・パラスポーツに興味をもつことができた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャについては事前に保健体育の授業でルールやスポーツの特性を学習しておいた。そのため、活動がスムーズに進んだ。</li> <li>・ボッチャ体験は4クラスを2回に分けて授業をしていただくことで、全員が試合を十分に体験できるようにした。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす体験の待ち時間の工夫</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	来年度もパラスポーツ(ボッチャ)体験を保健体育の授業等を活用して行っていきたいと思っている。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立蜆塚中学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	中学3年生 · 140名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック出場者の講話を聞くことで、オリンピックをより身近に感じられるようにする。また、夢に向かって努力する姿から自分の生き方について考える。
5 取組内容	<p>○11月16日 13:30~14:20 講演会 法政大学教授 杉本 龍勇様「人生は自ら拓く」</p>   <p>○11月16日 14:30~15:00 振り返り（各教室） 杉本先生の講話から、考えたこと感じたことを感想用紙にまとめる。</p>
6 主な成果	バルセロナオリンピックに出場した杉本さん自身がオリンピックという大きな目標に向かってどのように立ち向かっていったのかということを、熱く語ってくださいましたことで、夢をもつことの大切さやスポーツに取り組むことの素晴らしさ、取り組みの中で培った力がその後の人生に大きな影響力をもつことを多くの生徒が実感することができた。生徒たちにとってオリンピック

	ク・パラリンピックがより身近なものと感じる良い機会になった。また、何かに向かって一生懸命取り組むことが、自分自身を大きく成長させることにつながることに、生徒自身が改めて気付くことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	新型コロナウイルス感染症対策のため、3年生のみを対象とする講演会となった。しかし、実際のオリンピック出場者が直接生徒に語りかける言葉は重みをもって生徒たちに伝わっていた。実際に語ってもらうことに意味があると感じた。新型コロナウイルス感染症対策として、講師の方と生徒との距離や生徒同士の距離をとることや換気等の環境整備を整えての実施となった。
8主な課題等	今年度はコロナ禍において、規模縮小や実践方法に難しさがあり、大変であった。コロナの状況によっては講師の方を直接お招きすることもできない状況もあり、実施時期の計画を立てることが難しい状況が来年度も続くのではないかと思われる。
9来年度以降の実施予定	コロナの状況を考えると、来年度は全校生徒対象の講演という形での実施計画は考えにくいと思う。しかし、オリンピック・パラリンピックへの理解を深め、身近に感じながらいろいろな関わりをもつことで生徒自身が成長をしていくきっかけになるよう、細々と継続していきたい。

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立北星中学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年 657名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 保健体育科 ）            ② 行事名（ ）            ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）            ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する掲示や関連図書等を掲示することによって、オリンピックやスポーツに対する興味・関心を高める。
5 取組内容	<p>&lt;図書&gt;</p> <p>○オリンピックに関する掲示を各学年の廊下に掲示した。</p>  <p>○各学年のフロアの生徒の目に触れやすい位置にオリンピックの歴史やオリンピック関係の書籍の紹介掲示をした。中学生になじみの深いスポーツを大きく取り上げ、生徒の興味関心を高めるよう工夫した。また、北星中学校の卒業生であるアーチェリー杉本智美選手を取り上げた掲示をした。北星中学校を卒業した先輩が世界で活躍している姿を知るためのきっかけとした。</p> <p>○図書室にはオリンピックコーナーを作り、目立つ位置に配置した。オリンピック関係の書籍を並べて設置したことによって、多くの生徒たちの関心を引くことができた。</p>

	<p>普段の図書室では、生徒たちの多くは自分の入部している部活動の本を手に取る傾向がある。しかし今回の取り組みによって、多くの生徒が様々なスポーツの本を手に取る姿を見ることができた。</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒のオリンピックに関する関心を高めるきっかけとなった。</li> <li>○オリンピックの歴史について学ぶきっかけとなった。</li> <li>○普段なじみのないスポーツにも興味をもつきっかけとなった。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の目に留まりやすいよう配置を工夫した。</li> <li>○様々な種類の掲示や書籍を用意し、オリンピック・パラリンピックへの理解が深まるようにした。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染拡大の影響で講師を招いて講話が行えなかったこと。</li> <li>○オリンピック・パラリンピックに関係している講師の確保。</li> <li>○実技を行う際の場所や用具の確保。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来年度以降実施の予定はないが、継続的にオリンピック・パラリンピック教育を推進していく。</li> </ul>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立都田中学校 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I · <input type="radio"/> II · <input checked="" type="radio"/> III · <input type="radio"/> IV · <input checked="" type="radio"/> V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<input type="checkbox"/> 全校生徒対象 1年1組 33名、1年2組 33名、1年3組 33名 2年1組 31名、2年2組 31名、2年3組 32名 3年1組 35名、3年2組 34名、3年3組 33名 合計295名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<input type="checkbox"/> パラリンピック種目を中心としたオリパラムーブメントについて学習したり、体験したりすることを通して、スポーツの持つ価値について知識や考え方を深め、生涯を通じてスポーツに広く親しむ資質を育てる。
5 取組内容	<input type="checkbox"/> 「図書回覧」 後期が始まる11月初旬から、各教室へ書籍の回覧をした。  <input type="checkbox"/> 「保健体育の学習」 (1) 【事前学習】1時間 I'm possible を使って、オリパラ教育について事前指導をした。 内容は、オリパラの歴史、リオパラダイジェスト映像などを視聴し、東京オリパラによって日本がどのように変化するかを考えたり、感想などを書いたりした。 (2) 【オリパラ調べ学習】2時間（全学年） 1年生・・・パラ種目調べ 2年生・・・パラアスリート調べ 3年生・・・聖火ランナー調べ パソコン室を利用して、テーマに沿って個人が決めた人物について調べ学習を行った。

	<p><b>1年生パラ陸上 調べ学習シート</b></p>  
	<p>(3) 【橋本エンジニアリング車いす講演会、体験会】</p> <p>10月28日に地元企業で車いすを製作している橋本エンジニアリングの社員様に来ていただき、講演会をしていただいた。</p>  
6 主な成果	<p>(4) 【パラ種目体験】1時間</p> <p>3年生を対象に、シッティングバレーボールの体験（11月24日/常葉大・村本先生）を行った。それを受け、1, 2年生については本校の体育科教員が指導した。</p>   <p>○「展示」2020年11月～</p> <p>オリパラ関連のパネル展示や、生徒の調べた作品展示を通じて、オリパラについての興味を促し、理解を深めた。</p> <p>特に聖火マラソンについて興味を促すために、3年生が調べた聖火ランナー調べの掲示をして、中心には日本地図とマラソン開催日程などを記載した掲示を付けた。</p>   <p>○調べ学習やパラ種目体験に取り組むことによって、オリンピックやパラリンピックに関する知識や興味を高めることができた。</p> <p>《生徒の感想より》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火ランナーについて調べることで、オリンピックへの興味</li> </ul>

	<p>がさらに高まりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火ランナーを走る人たちはみんな思いがあります。今年はコロナでオリンピックが延期になってしまいましたが、きっと来年は元気を与えてくれるのではないかと思いました。</li> <li>・橋本エンジニアリング様の車いすはとても軽くて驚きました。私はオリンピックを見に行きたいと思っていましたが、パラリンピックもTVで見てみたいと思いました。</li> <li>・シッティングバレー・ボールを体験して、実際やってみると見た目より難しい種目だった。テレビで応援したいと思います。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○今年度も常葉大学職員や学生の皆様から多大な御協力をいただくことで、充実した活動にすることことができた。 地元企業の橋本エンジニアリングの協力も大きかった。</p>
8主な課題等	<p>○感染症拡大防止対策をした上での取り組みという点や、実際に来年の大会が開催されるか分からぬ不安があるという点でのマイナス面があった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○夏の大会本番に向けて、さらなる意識高揚と、事前事後の学習を充実させたい。 具体的には、事前指導として各種目出場選手を生徒が興味のある内容で調べさせて、その種目の特性や選手の生き方について学べる機会を作りたい。 事後指導としては、大会を振り返る中で、未来の社会の望ましい在り方について考えを広めるために、選手にインタビューをしたり、作文を書かせたりしていきたい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立篠原中学校 】

1 実践テーマ	(I) · (II) · (III) · (IV) · (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年4組 31名 2年4組 30名 3年1組 33名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道徳・保健体育 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○オリンピックやパラリンピックに関する書籍や授業を通して、生徒が歴史や意義について学び、オリンピック、パラリンピックに関する興味関心を高める。 ○パラリンピック種目を中心とした種目の体験を通して、スポーツは、人種、民族、年齢や性別の違い、障害の有無などをこえて楽しむことができるという、スポーツの魅力を感じとり、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる生徒を育成する。
5 取組内容	① 昇降口掲示 昇降口にパネルや種目についての掲示をし、オリパラへの意識向上へつなげた。  ② I'm POSSIBLE を用いた道徳の授業 パラ選手の動画をみたり、バリアフリーの観点から考えたりしてパラリンピックへの興味関心を高めた。

	  <p>③ ボッチャ、ブラインドサッカーの種目体験 常葉大学の講師の先生をお招きして1, 3年生はボッチャ、2年生がブラインドサッカーを行った。</p> <p>○ボッチャ 11月27日(1年生)、12月11日(3年生・発達学級) 講師 櫻井博紀准教授ほか学生3名</p>   <p>○ブラインドサッカー 12月8日(2年生) 講師 神力亮太助教ほか学生1名.</p>   <p>6 主な成果 ○事前学習で「imPOSSIBLE」を活用した道徳を行うことで、障害の有無に問わらず、その人に主眼を置いたコミュニケーションを必要があることを学ぶことができた。また、今まであまりなじみのなかったパラリンピックの選手たちの動画を視聴することで、パラリンピックに対する興味をもつことができた。 ○ボッチャ及びブラインドサッカーを実際に体験することで、パラ選手たちの凄さを身をもって感じることができた。</p>
6 主な成果	

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○ボッチャやブラインドサッカーの体験前に、I'mPOSSIBLE を使った道徳の授業を行うことにより、今まであまり親しみのなかったパラリンピックに興味をもつことができた。</p> <p>○ボッチャやブラインドサッカーの体験は、協力校の常葉大学の先生が時間を都合してくださり全校生徒が体験できた。</p>
8主な課題等	<p>○体験活動は楽しく活動ができ、生徒の心にも残るが楽しさだけで終わってしまうところもあり、そこから継続的に指導することでオリンピックやパラリンピックに対する興味も高まると思う。</p> <p>○この体験を通して、ボッチャやブラインドサッカーなど器具を学校で用意したいが、値段も高く用意できないため、1時間だけの活動となってしまい残念であった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○来年度はオリンピック・パラリンピックが開催される予定ですので、保健体育の授業等で種目について取り上げていきたい。また、ボッチャやブラインドサッカーなどについて、動画をみるとができるようなら、子供たちにみせていきたい。</p> <p>○「共生」という観点での、道徳の授業は継続させてていきたい。</p>

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

学校名【 浜松市立可美中学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第3学年 生徒 110人 教員 10人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 保健体育 )            ② 行事名 ( )            ③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )            ② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○2021年東京オリンピック、パラリンピック開催に合わせ、スポーツの意義や価値について関心を高める。</p> <p>○プロスポーツ選手の話を聞くことで、希望や勇気をもち、困難にも立ち向かえる態度を育てる。</p>
5 取組内容	<p>&lt;7月&gt;</p> <p>オリンピック・パラリンピックの歴史や理念に触れるため、貸し出してくださいましたパネルを展示した。また、オリンピック・パラリンピックに関わる関連図書もパネルの下に設置し、貸し出しができるようにした。</p> <p>一定の期間の展示をし、その後は図書室にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置していくでも貸し出せるようにした。</p>  <p>&lt;11月&gt;</p> <p>・13日：女子卓球の元日本代表の若宮三紗子さんを招き、講演とデモンストレーションを行っていただいた。真剣な表情で話を聞く生徒の姿が印象的で、デモンストレーションでは、本校の卓</p>

	<p>球部の生徒と対戦をしていただき、プロの技術を間近で見た生徒は技術の高さに驚き、尊敬のまなざしで見ていた。</p>  <p>【生徒とのコミュニケーション】</p>  <p>【生徒との対戦・・・もちろん勝てませんでした。】</p>
6 主な成果	<p>事前に若宮さんについて授業の中で紹介したことにより、生徒の興味関心が高まり、講演の内容が生徒の心に入りやすかったと感じる。</p> <p>世界の舞台で戦った若宮さんの話を聞いて「夢」の達成のために大切なことは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①夢に期限をつけること</li> <li>②現在地を知る=自分を知る</li> <li>③すでに実現している人の話を聞く</li> <li>④スケジュールを組む</li> </ul> <p>であると話をいただき、実体験を通して感じた具体的な話を、パワーポイントを利用しながらわかりやすく説明してくれたため、生徒の理解も深まった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【話を聞いた生徒の振り返りより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若宮さんの話を聞いて、夢の実現のためには順序を組み立てていくことの大切さを学んだ。</li> <li>・卓球を通しての話を聞いていたが、他の部分（学習など）にも生かされることがあったと思った。</li> <li>・話の中で「現在地を知る」という内容があった。すごく納得できた。先のことばっかり見ていてはいけないと感じた</li> </ul> </div>

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルの展示や関連図書は、本校の中で生徒が最も通る中央廊下に設置し、目に触れる機会を増やした。</li> <li>・関連図書は、学級担任より紹介する機会を設定した。</li> <li>・世界のレベルで戦った技術を実際に体験させていただくために、卓球のデモンストレーションをしていただき、生徒との交流の場を作った。</li> </ul>
8主な課題等	<p>新型コロナウイルス感染症の関係で、当初の計画から大幅な変更があり対応が難しかった。また、コロナが終息する時期もはっきりとせず、会場や対象をどのように設定していくのが良いのか検討することに時間を要した。</p> <p>開催時期が学校行事と重なっており、なかなか連絡がとりあえず、直前まで内容が決まらないことがあった。</p> <p>今年度の実施は常葉大学さんの協力がなくして行うことはできませんでした。何から何まで協力していただき、本当にありがとうございました。</p>
9来年度以降の実施予定	生徒にとって有意義な活動となったため、来年度も継続を検討している。

〈教育推進事業〉

## 2. 地域報告会・講演会

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 浜松市 】

事業名【 地域報告会・トップアスリート講演会 】

1 実践テーマ	<input checked="" type="radio"/> I <input type="radio"/> II <input type="radio"/> III <input type="radio"/> IV <input checked="" type="radio"/> V(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	浜松市内の小学生 179名(会場 29名、リモート150名) 会場観覧者(教育推進校教員含む) 127名 リモート15名 合計321名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名( ) ② 行事名( ) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名(地域報告会・トップアスリート講演会) ② その他( )
4 目標 (ねらい)	オリパラ教育推進校で実施したオリンピック・パラリンピック教育の成果を共有し、今後のオリパラ教育推進につなげる。 ムーブメント事業として、トップアスリートを招聘した講演会を行い、教育推進校以外の学校の児童、保護者、地域の方にも参加してもらい、浜松市内の機運醸成を図る。
5 取組内容	令和3年2月15日(月)、浜松市勤労会館Uホール [プログラム] <I部> 14:00~15:20 アスリート講演&トークショー 「夢を叶えた不退転の軌跡」 ○元女子柔道オリンピック選手 松本 薫氏 (ロンドン大会金メダル、リオデジャネイロ大会銅メダル) ○車いすラグビー 池崎大輔選手 (ロンドン大会4位、リオデジャネイロパラ大会銅メダル)  <II部> 15:30~16:40 教育実践事例報告 (ブラジルアスリート交流報告含む) 全国中核拠点大学による総括  本事業は、実践事例報告会に加え、元女子柔道、松本薰氏と車いすラグビー、池崎大輔選手の講演会・トークショーを実施した。講演会では、近隣の浜松市立追分小学校の6年生全員と浜松市の2つの小学校(城北小・都田南小)の6年生もリモートで参加した。

	<p>選手時代に「野獣」と呼ばれた松本氏は、会場で「野獣」になる方法などを紹介し、「世界の選手に挑むときには自分を作り上げていた」と話した。また、「失敗したとき、どうすればよいのか?」という児童の質問に対して「落ち込んでもいい。それは1日だけにして、挑戦した自分をほめて」とエールを送った。</p> <p>一方、リモートで講演した池崎選手は、車いすラグビーとの出会い、その魅力について紹介した。児童の質問に対しては「失敗の原因を考え、もう一度挑戦することが大事。失敗は『学び』です」とアドバイスした。</p> <p>最後に、池崎選手は東京大会で金メダル獲得に意欲を示し、「コロナ禍でチーム練習ができない今が一番大変。競技普及のためにも頑張るので応援して欲しい」と語った。</p> <p>地域報告会では、5つの教育推進校が、パラスポーツ体験、アスリート講演、ブラジルパラアスリートとのリモート交流など、大学や地域企業・団体との連携で行った様々な事例について報告した。</p> 
6 主な成果	<p>浜松市内の5大学(常葉大学、浜松学院大学、聖隸クリリストファー大学、浜松医科大学、静岡文化芸術大学)が浜松市の委託を受け、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、スポーツへの理解を深め、障がいのある方への理解、異文化への理解を高める機会として実施した。</p> <p>トップアスリートの講演では、ご自身の経験から、失敗から学ぶ意義、練習を続けることの大切さなど、日々、生活を送るうえで勇気づけられる様々なアドバイスがあった。また、ハンディキャップを乗り越え、夢に向かって挑戦する姿を見ることができた。また、実践事例報告では、各校の取り組みが共有できた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>コロナ禍での開催のため、会場での観覧者を制限し、リモート参加やYouTube配信によるリモート観覧など、オンラインを活用しできるだけ多くの方が参加できるように工夫した。</p> <p>各大学の担当者間、リモート参加の小学校との連携で問題なく実現できた。多くの児童からも直接、質問ができる環境となり、有意義な会になった。</p>
8主な課題等	<p>通信環境を整え、さらに多くの市民の方が参加できるよう、事業の周知方法も含め、工夫する。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>本事業は来年度も継続し、11月13日土曜、静岡文化芸術大学を会場にムーブメント事業(イベント)を開催する予定。</p>



## オリパラ浜松市内大学連携協議会 構成員

会長	小柳 好生	常葉大学健康プロデュース学部 教授
副会長	大野木 龍太郎	浜松学院大学現代コミュニケーション学部 教授
会員	木村 佐枝子	常葉大学健康プロデュース学部 准教授
	荻原 慎介	浜松学院大学経営企画室 室長
	鈴木 光男	聖隸クリストファー大学社会福祉学部 教授
	吉本 好延	聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部 教授
	長井 亨悟	浜松医科大学総務課 課長
	久慈 裕	浜松医科大学総務課 広報室長
	小濱 朋子	静岡文化芸術大学 デザイン学部 教授
	宮野 哲	静岡文化芸術大学 地域連携室 室長
事務局	藤森 康朗	常葉大学事務局 次長
	須山 嘉七郎	常葉大学浜松地域貢献課 顧問
	松岡 孝江	常葉大学浜松地域貢献課 課長
	金原 克征	常葉大学浜松地域貢献課
	横原 佑太	学務グループ兼経営企画室 主事
	森山 知恵子	学務グループ兼総務・企画グループ (IT 担当)
	中村 憲司	聖隸クリストファー大学総務部長
	辻村 拓哉	聖隸クリストファー大学総務部 IR 室 スタッフリーダー
	金原 明弘	浜松医科大学総務課
	岡田 佳久	静岡文化芸術大学 地域連携室 主幹
オブザーバー	石野 政史	浜松市教育委員会指導課 副参事
	角屋 裕子	浜松市教育委員会指導課 副参事・課長補佐
	澤田 吉延	浜松市スポーツ振興課 スポーツコミッション推進担当課長
	村田 弘貴	浜松市スポーツ振興課 主任

### ◆教育実践協力者・企業・団体一覧

橋本エンジニアリング株式会社 (スポーツ競技用車イスの講話)  
 ヤマハ発動機ジュビロラクビー (ラクビー).  
 株式会社 TOMO RUN (陸上競技)  
 浜松ボッチャ俱楽部 COOL (ボッチャ競技) 佐々木雅啓・北澤和寿  
 静岡パリアーズ (車いすバスケットボール)  
 FC コレチーボ静岡 (ブラインドサッカー競技)  
 根木 慎志 (車いすバスケットボール) 2000 年シドニーパラリンピック出場  
 蒼原 滋男 (陸上競技・ブラインドサッカー) 1992 年バルセロナ、1996 年アトランタパラリンピック出場  
 松原 良香 (サッカー) 1996 年アトランタオリンピック出場  
 若宮 三紗子 (卓球) 世界卓球選手権5出場、2016 年世界選手権女子団体銀メダル  
 伊藤 裕子 (障害児者の水泳指導者) 有限会社びゅあサポート代表取締役。教え子がパラリンピックに出場  
 大口 真洋 (バスケットボール) 三遠ネオフェニックス所属、浜松学院大学男子バスケットボール部監督  
 中尾 勇生 (陸上競技・長距離) SMILEY ANGEL(杏林堂)所属.  
 杉本 龍勇 (陸上競技) 法政大学経済学部 教授、1992 年バルセロナオリンピック出場  
 松澤 俊行 (スポーツに関する講話・ボッチャ競技) 浜松学院大短期大学部 准教授  
 大野木 龍太郎 (生涯スポーツ等の講話) 浜松学院大学現代コミュニケーション学部 教授  
 光安アバレシダ光江 (ブラジル食文化体験) 浜松学院大学現代コミュニケーション学部 准教授  
 櫻井 博紀 (ボッチャ競技) 常葉大学保健医療学部 准教授  
 木村 佐枝子 (スポーツ S D G s の講義・演習) 常葉大学健康プロデュース学部 准教授  
 村本 名史 (シッティングバレー) 常葉大学健康プロデュース学部 准教授  
 神力 亮太 (ブラインドサッカー競技) 常葉大学健康プロデュース学部 助教  
 宮本アイラ (ポルトガル語通訳) こまたす推進プロジェクト所属

浜松市ムーブメント事業  
地域報告会・ワークショップ

## 事業実施報告書



令和3年3月 発行

オリバラ教育浜松市内大学連携協議会(常葉大学、浜松学院大学、聖隸クリストファー大学、浜松医科大学、静岡文化芸術大学)